

2020年2月13日

「V+ていく/てくる」と「V+去/来」に関する日中対照研究
— 『中日対訳コーパス』に基づいて—

三重大学大学院教育学研究科
教育科学専攻 人文・社会系教育領域
218M019 鄭盼盼

目次

序章	1
1. 研究動機と目的	1
2. 研究方法	1
第1章 先行研究	3
1. 1 日本語「V+ていく/てくる」に関する研究	3
1. 2 中国語「V+去/来」に関する研究	3
1. 3 「V+ていく/てくる」と「V+去/来」の対照研究	3
1. 4 まとめ	4
第2章 「V+ていく/てくる」の用法分類	4
2. 1 森田 (1968) による「ていく/てくる」の分類	4
2. 2 吉川 (1976) による「ていく/てくる」の分類	6
2. 3 本研究における「ていく/てくる」の分類	7
第3章 移動に関する用法における「ていく/てくる」と「去/来」の対応状況	9
3. 1 行為の順次性	9
3. 2 移動の方法	12
3. 3 移動の状態	13
3. 4 移動・動作の方向性	15
3. 4. 1 移動の方向性	15
3. 4. 2 動作の方向性	19
3. 4. 3 まとめ	20
第4章 アスペクト用法における「ていく/てくる」と「去/来」の対応状況	21
4. 1 継続の過程	21
4. 1. 1 「てくる」と「下来」の表す継続の過程	22
4. 1. 2 「ていく」と「下去」の表す継続の過程	27
4. 1. 3 まとめ	28
4. 2 変化の過程	28
4. 2. 1 プラス・マイナスの変化における対応状況	29
4. 2. 2 話し手の主体的立場と「ていく・てくる」の使用	34
4. 3 動作・作用の発生（てくるのみ）	35
4. 4 消滅の過程と出現の過程	38

4. 4. 1 消滅の過程を表す「ていく」と「去」	38
4. 4. 2 出現の過程を表す「てくる」と「来」	39
第5章 終章	41
5. 1 日中対照研究の成果	41
5. 2 今後の課題	44
引用・参考文献	44
謝辞	46
添付資料	47

序章

1. 研究動機と目的

日本語では、話し手を離れる移動を表す場合に「行く」を、話し手へ近づく移動を表す場合に、「来る」を用いる。中国語においても、日本語の「行く」と「来る」の意味に相当する語彙「去」と「来」が存在する。空間移動を表す基本義では、日本語の「行く」と「来る」は、それぞれ中国語の「去」「来」に相当する意味を持っているが、日常会話の中で使われる場合、日中両言語の視点の置くところの違いによって、その用法は必ずしも対応するとは限らない。例えば、近い距離で、「はやくこっちへ来いよ!」と言われて、日本語では「すぐ行くよ!」と答える場合、中国語では、“就来, 就来(直訳:すぐ来る)”となる¹。筆者の卒業論文では「視点の移行」をめぐって、移動動詞「行く/来る」に関する日中対照研究を行った。これをきっかけに、「いく/くる」と「去/来」に対する興味と理解が高められ、それについて一層深い研究をしてみたいと思うようになり、両者の補助形式「V+ていく/てくる」と「V+去/来」の対応関係に目を向けたのである。

日本語「いく/くる」は物理的空間移動を表す意味で移動動詞として使われるのにとどまらず、「走っていく/てくる」、「増えていく/てくる」というふうに、動詞の後ろに用いて、人や物事が動作を伴って空間的・時間的・心理的に話し手の立脚点から離れ遠ざかることあるいは近づけることを表す。同じように、中国語の「去/来」も単独の移動動詞の用法のほかに、「跑来/跑去」のように、動詞の後ろに付き、方向補語としても用いられる。さらに、「增长起来、減少下去」というふうに、「動詞+他の方向補語(“进、出、上、下、回、过、起、开”)+去/来」の形で複合方向補語も形成する。

つまり、日本語「～ていく/てくる」と中国語の方向補語「去/来」あるいは複合方向補語“进、出、上、下、回、过”など+去/来」とは同じ補助動詞として、先行動詞に具体的な意味を添える機能を果たせる。しかし、実際に文中で使われる場合、両者には対応する場合もあれば、対応しない場合もある。例えば、「彼から電話がかかってきた」(他打来了电话)、「走っていく」(跑过去)といったフレーズでは、「くる、いく」と「来、去」はそれぞれ対応しているが、「今日、映画を観てきた」(今天,去看了电影)のように「くる」は「来」ではなくて、「去」と対応しているという逆対応の場合もある。さらに、「だんだん消えていく」(渐渐消失)のように、日本語では「ていく、てくる」を用いて、中国語では「去、来」のどちらも出現しない非対応の場合もある。

私の研究では日本語の「動詞+ていく/てくる」と中国語の「動詞+去/来」にはいかなる対応関係があるのかを明らかにしていきたいと考えている。また、本研究の結果を生かし、中国人日本語学習者の日本語習得においてこれらの点が少しでも役に立つことを期待している。

2. 研究方法

「動詞+ていく/てくる」と「動詞+去/来」は両方とも多様の意味で使われているため、考察する際には日本語「動詞+ていく/てくる」を中心に、その中の「ていく/てくる」の意味用法を分類した上で、日中対照研究を進めていきたい。その後、それぞれの用法分類に属する中日対訳コーパスの中の「ていく/てくる」が使われている例文を一部分抽出し、それらの中国語訳文と照らし合わせながら、「V+ていく/てくる」と「V+去/来」の各方面に確認される特徴や両者の対応状況、または先行動詞の特徴について考察をしていく。

¹ 『小学館 中日辞典』第二版(2003年) p.852

本研究で使われる「中日対訳コーパス 第一版」(2003)は北京日本学研究中心により開発された対訳データであり、中には小説、エッセー、伝記、政治評論・白書、法律関連文書・条約文書、詩など各ジャンルの中日対訳テキストが収録されている。詳しい情報は以下の通りである²。

文学作品：中国 23 篇，日本 22 篇とその訳本（合計 105 件，約 1130.3 万字）

文学以外：中国 14 篇，日本 14 篇，日中共同 2 篇とその訳本（合計 45 件，約 574.6 万字）

また、中日対訳コーパスを使用する際には中国語あるいは日本語のキーワードを入力して、日本語原文、日本語訳文、中国語原文、中国語訳文の 4 つのカテゴリから検索することが可能である。検索結果ではそのキーワードに含まれる原文と訳文とともに表示される。

今回の研究では主に「てい（行）く」「てく（来）る」とその過去形「てい（行）った」「てき（来）た」をキーワードとして、「あした来る人」「越前竹人形」「坊ちゃん」「こころ」という四つの日本の文学作品の中から「V+ていく/てくる」という形が使われている典型例を集めた。ただ、対応状況と先行動詞の性質との関係を考察する際には、特定の動補構造「明るくなっていく」「消えていく」などをキーワードとして検索する場合もある。また、このような特定の動補構造はこの四つの作品に存在しない場合もあるので、補足として「ノルウェイの森」「野火」などにおける例文もいくつか取り上げている。また、本研究では日本語「ていく」「てくる」の意味分類を中心にしたため、中国の文学作品の中から収集した例文は非常に少ないのである。本研究では、対訳コーパスに収集された対訳例を、日本の作品の場合は日本語原文を上、中国語訳文は下に表記する。中国の作品の場合は順序を逆にする。

本研究においては、加藤（2006）の分類を参考に、収集された例文の中の「ていく/てくる」と「去/来」の対応状況を「対応」「非対応」と「逆対応」の三つに分ける。「対応」というのは日本語では「ていく」を用いるところに中国語では「去」あるいは「去」と他の方向補語によって構成される複合方向補語を、日本語では「てくる」を用いるところに、中国語では「来」あるいは「来」によって構成される複合方向補語を用いる状況を指す。「逆対応」というのは「ていく」を用いるところに、中国語では「来」あるいはその複合方向補語を、「てくる」を用いるところに中国語では「去」あるいはその複合方向補語を用いることを指す。「非対応」というのは日本語では「ていく/てくる」を用いて表現する場合、中国語では「来、去」が全く出現しないことを指す。表にまとめると、以下のようになる。

表 1、日中対応状況の分類

	日本語	中国語
対応	V+ていく	V+去
	V+てくる	V+来
逆対応	V+ていく	V+来
	V+てくる	V+去
非対応	V+ていく/てくる	来、去の使用なし

² 中日対訳コーパス第一版の利用方法による。http://www.fl.reitaku-u.ac.jp/LINC/pub/cjes1.pdf

第1章 先行研究

1. 1 日本語「V+ていく/てくる」に関する研究

森田(1968)は、補助動詞「ていく・てくる」について、次のような分類を提示し、各分類について詳しく分析している。

- a. 移動を表す「ていく・てくる」
 - ア、動作・行為の順次性を表す(集めて～、洗って～、言って～、など)
 - イ、平行して行うことを表す((駅まで)送って～、抱いて～、連れて～、など)
 - ウ、移動するときの状態を表す(歩いて～、泳いで～、駆けて～、など)
 - エ、複合して1つの動作・作用を表す(上がって～、降りて～、落ちて～、など)
- b. 時間的継続を表す「ていく・てくる」(生きて～、暮らして～、忍んで～、など)
- c. 発生を表す「てくる」(思いがあふれて～、現れて～、(考えが)浮かんで～、など)
- d. 変化を表す「ていく・てくる」(変わって～、(夜が)明けて～、薄らいで～、など)

吉川(1976)は、森田氏の分類方法に基づいて、「ていく・てくる」の用法をまず大きく「空間的移動を表す」と「アスペクトをあらわす」との2種類に分ける。そして、この2種類の下位分類として、それぞれ4種類に分けて、合わせて8種類の用法がまとめられている。それに、分類の仕方がそれぞれ異なるが、内容的には森田の挙げた7種類の用法はすべて吉川の挙げた用法分類に相当する。吉川の用法分類において、1種類だけ増えたのは「出現の過程と消滅の過程」を表す用法である。吉川(1976)では「てくる」、「ていく」は「あらわれてくる、生まれてくる、わいてくる」と「失っていく、死んでいく、消えていく」のようにそれぞれ出現を表す動詞と消滅を表す動詞とに結びついて用いられる場合には、「出現の過程」と「消滅の過程」を表すと指摘している。

1. 2 中国語「V+去/来」に関する研究

馬(1997)の研究では主観的な範疇から「去/来」および「去/来」を含む複合方向補語の使い方について分析を行った。動作によって可視的な結果が生じる動詞のあとに、「来」の接続が許される。逆には先行動詞に「去」を接続できる。または「去/来」の各種の複合形式で、「下来」「下去」「过来」「过去」「回来」「回去」「起来」などの使用条件を分析した。

1. 3 「V+ていく/てくる」と「V+去/来」の対照研究

宋(2014)は日本語「V+ていく/てくる」と中国語「V+去/来」の先行動詞Vに注目し、コーパスとアンケート調査によって「V+ていく/てくる」の中のVを考察した上で、Vの使用率と語彙的な特徴の異同を分析した。

加藤(2006)は『中日対訳コーパス』を利用し、その中に収録された3篇の中国語の小説から、中国語「来」「去」を含むフレーズとそれらの日本語訳文を収集し、これらの用例における「来」「去」と「くる」「いく」の対応状況を「対応類」「非対応類」「逆対応類」の3種類に分けた上で、中日対照研究を行った。結果としては、主に以下の点が確認された。中国語小説の中の「来」「去」が移動の意味を表さないとき、対応する日本語訳にも「くる」「いく」は通常現れない。しかし、中日両言語の動詞の性質などの違いによって、一部の「来」「去」が移動の意味を表すにも関わらず対応する日本語訳に「くる」「いく」

が表れない現象が存在する。さらに、対話部分では、中日両言語における話し手の視点の違いによって、「くる」「いく」の選択に違いが生じる。叙述部分では、中国の作者は場面全体を眺める視点を取る傾向があるのに対して、日本の作家は登場人物の視点に一致させて叙述する傾向がある。

張勝男(2009)では日本語「行く/来る」と中国語「去/来」の本動詞としての空間移動を表す基本義から様々な派生義まで、日中対照研究を行った。その対応関係に中日の空間移動に対する認知や話者の視点の転移について日中の区別を分析した。さらに、補助動詞としての「ていく/てくる」を「継続的構成」、「従主的構成」、「補助的構成」という三つの分類に基づき、中国語「去/来」と対照的に分析した。また、両者の対応関係から中日空間移動の方向性とアスペクト的用法の差異についてもある程度述べた。

陳(2017)は日本語「ていく・てくる」を「空間的移動用法」「時間的アスペクト用法」「認知的用法」の3種に分け、さらに、どのような先行動詞に接続するかによって細かく分類した上で、中国語「去・来」との対照研究を行った。研究の結果では、「空間的移動用法」において、「映画を観てきた(去看电影)」のような「往復移動」を表す「てくる」以外は、すべて日中の対応関係が成立していると陳は指摘しているが、実際に「リンゴを買ってくる(买来苹果)」のように、「往復移動」を表しても日中の対応関係が成立している場合もある。また、陳では「時間的アスペクト用法」において、「変化用法」の「てくる」は中国語「来」と対応関係を持たないと結論付けているが、実際に「落ち着いてきた(安静下来)」「暗くなってきた(暗下来)」のように、変化を表す用法においても、日中両言語では対応している状況がかなり存在するのである。したがって、「ていく/てくる」と「去/来」の詳しい対応状況については、まだ検討する余地があると思われる。より多く用例を収集し、そこから「対応」「非対応」さらに「逆対応」の各状況をまとめ、これらの状況を形成する理由を両言語の言語特徴から探っていくことが本研究の目的である。

1. 4 まとめ

これまでの先行研究をまとめてみると、日中対照研究の中で、本動詞を中心とする「行く/来る」と「去/来」の間の対応関係が多く分析されているが、補助動詞の「V+ていく/てくる」と「V+去/来」に関する日中対照研究においてはまだ検討の余地があるものと考えられる。

本研究では日本語「V+ていく・てくる」の意味用法を細かく分類した後、先行動詞と共起する条件なども含め、中国語「V+去/来」との「対応」「非対応」「逆対応」の関係について考察を行っていく。さらに、「去/来」によって構成される複合方向補語「“进、出、上、下、回、过”など+去/来」も含めて、日本語「ていく・てくる」や中国語「来、去」の対応状況について総合的に考察を行いたい。

第2章 「V+ていく/てくる」の用法分類

2. 1 森田(1968)による「ていく/てくる」の分類

森田(1968)は「ていく・てくる」の表す意味によって「a. 移動を表す『ていく・てくる』」、「b. 時間的継続を表す『ていく・てくる』」、「c. 発生を表す『てくる』」、「d. 変化を表す『ていく・てくる』」に分けられている。そのうちb、c、dがアスペクトに関係する。以下は森田氏が指摘したものである。

a. 移動を表す「ていく・てくる」

ア. 動作・行為の順次性を表す

この用法について森田は「ある一地点にて何かをしてそれから行く、または来る」と定義している。

- トラックが積荷を落として行った。

他の先行動詞としては、「集めて～」「洗って～」「残して～」「見て～」などがあげられている。

イ. 平行して行うことを表す

二つの行為は平行して同時に行われる。何かを持って、または伴って移動行為を行う。

- 私は君を事務室へ連れて行った。(田村泰次郎「肉体の悪魔」)
- 叔父の祖母が赤児を抱いて来た。(「和解」)

それに、「(駅まで)送って～」「載せて～」「運んで～」などの動詞がよくみられる。

ウ. 移動するときの状態を表す

- 山道をはるばる歩いて行ったのである。(「流木」)

のように、いく・くるの動作がどのような手段や状態のもとに行われるかを表す。他に、「泳いで～」「駆けて～」「乗って～」などの動詞が多く用いられる。

エ. 複合して一つの動作・作用を表す

- 女中の足音が、廊下を遠ざかっていった。(北原武夫「事」)
- 妻は黙って近よって来て自分の手を両手で堅く握りしめた。(「和解」)

のように、「いく・くる」は先行動詞の表す行為が話し手へ近づくか遠ざかるかといった話し手の視点から見た、行為の具体的な方向性を付与している。用いられる先行動詞としては「上がって～、降りて～、落ちて～、帰って、尋ねて～、出て～、ぶつかって～」などがある。

b. 時間的継続を表す「ていく・てくる」

- 「私は今日まで皆に軽蔑されて来ました。」(武者小路実篤「ある彫刻家」)
- 「今後、どうして食って行くつもりなんだ。」(里見弴「みごとな醜聞」)

のように、いく・くるは「生きて～」「勤めて～」「続けて～」などの継続動詞性の動詞につき、動作の時間的持続の他に、

- 広田は曾つて旅の世渡りもして来て見聞があった。(滝井孝作「積雪」)

のような経験の積み重なる過程も表す。

c. 発生を表す「てくる」

- 其内祖父が自分の心裡に蘇って来た。(「和解」)
- 何処からか腹力が湧いてくるやうな頼もしい蛮声だった。(檀一雄「父子来迎」)

ある現象が自然発生的に出現・生起する場合、「(思いが)あふれて～」、「(考えが)浮かんで～」、「(気持ち)が起こって～」のような心理的現象、または、「(痛みが)押しよせて～」のような感覚の生起に多く用いられる。この用法はふつう瞬間的作用を表す無意志性の自動詞に「くる」のついたものである。

d. 変化を表す「ていく・てくる」

- 書いて居る内に其父の顔は段々変って行く。(「和解」)
- すると、みるみるH氏の周囲の事情が変って来た。(「流木」)

これらの「ていく・てくる」は、ある状態から別の状態へと変化する過程を具体的に捉えた表現である。しかも、話し手の立つ時点から見て、その変化が時間的に接近してくる場合「～てくる」を、遠ざかっていく場合「～ていく」を用いる。

「変わってくる＝だんだん変わり始める 変っていく＝変化がどんどん進行する」
 また、「てくる」は変化の結果側に立ち、対象の変化が話し手の時点に向かってくる気分を表すのにたいして、「ていく」は変化前の状態に立ち、対象の変化が話し手から遠ざかっていく気分を表す。用いられる動詞としては、「落ち着いて～」「(夜が) 明けて～」「悪くなって～」などがある。

2. 2 吉川 (1976) による「ていく/てくる」の分類

吉川 (1976) は「してくる、していく」の用法を「空間的移動を意味する」と「アスペクトをあらわす」との2種類に分ける。それぞれの下位分類として4種類があって、合わせて8種類の用法があげられている。吉川 (1976) では「してくる」「していく」のそれぞれの意味を以下のように対照させて表にまとめている。

表2、空間的移動を意味する「してくる、していく」

「～てくる」の「～て」は次のことを表す	「～ていく」の「～て」は次のことを表す
①「くる」まえにする動作 例 本やへいって、え本を <u>か</u> ってきました。	①「いく」まえにする動作 例 「そのかわり、その白い馬は、 <u>お</u> いていけ。」
②「くる」方法 例 そのとき、子どもがひとり、 <u>あ</u> るいてきました。	②「いく」方法 例 みんな、 <u>は</u> しっていきます。
③「くる」ときの状態 例 てっぽうを <u>も</u> ってきました。	③「いく」ときの状態 例 わらを <u>く</u> わえていこう。
「してくる」は次のことを表す	「していく」は次のことを表す
④発言者のいる所へちかよる動作・作用 例 その声を聴いて、くまが、あなから出てきました。	④発言者のいる所から遠ざかる動作・作用 例 かぐやひめは、月の国へかえって行きました。

注：①②③は「～ていく/てくる」の先行動詞Vの表す意味による分類；④は「ていく・てくる」自体の表す意味による分類である。

表3、アスペクトを表す「してくる、していく」

「してくる」は次のことを表す	「していく」は次のことを表す
①出現の過程 例 ことばは生活の中から <u>生</u> まれてきます。	①消滅の過程 例 心細く思いながら、 <u>き</u> えていく白鳥のむれを見送りました。
②変化の過程 例 だんだんおなかが <u>す</u> いてきました。	②変化の過程 例 けれども、病気は、ますます <u>重</u> くなって行きました。
③過程（動作・作用）のはじまり 例 そのうちに、雨が <u>ふ</u> ってきました。 遠くから答えのたいこが <u>聞</u> こえてきた。	
④ある時点までの継続 例 おたがいに <u>は</u> げまし合ってきた、この年月。	④ある時点からの継続 例 うまく宣伝して、新しい観光地として発展 <u>さ</u> せていけばいい……

注：③「過程の始まり」は「してくる」によってしか表されないものである。

2. 3 本研究における「ていく/てくる」の分類

吉川 (1976) の分類は主に森田 (1968) の分類に基づいて、「出現の過程と消滅の過程」という一つの分類を新たに加えたものと見られる。それに、吉川は「過程の始まり」(森田の「c. 発生を表す『てくる』」に相当) という「てくる」のみの用法分類において、「聞こえてきた」「わかってきた」のような森田の研究にも述べた心理的・感覚的現象の生起のほかに、「雨が降ってきた」のような自然現象の生起も含まれていると指摘している。

本研究では主に吉川氏の 8 種の用法分類を基礎として、森田氏に関する定義や用例をも参考に、「ていく/てくる」の表す意味の違いによって以下のように分類する。

表 4、移動に関する用法

分類	定義	用例	共起する動詞
①行為の順次性	ある一地点にて何かをしてそれから行く、または来る。	・トラックが積荷を落として行った。	「集めて～、洗って～、残して～、見て～」など
②移動の方法	どのような手段や方式のもとに「いく・くる」の移動行為が行われるかを表す。	・山道をはるばる歩いて行ったのである。	「泳いで～、駆けて～、乗って～」など
③移動の状態	何かを持って、または伴って「いく・くる」という移動行為を行う。	・私は君を事務室へ連れて行った。 ・叔父の祖母が赤児を抱いて来た。	「(駅まで) 送って～、載せて～、運んで～」など
④移動・動作の方向性	移動の方向性	「くる・いく」は移動を表す動詞につき、その移動が話し手へ近づくか遠ざかるかといった具体的な方向性を付与する。	・女中の足音が、廊下を遠ざかっていった。 ・妻は黙って近よって来て自分の手を両手で堅く握りしめた。
	動作の方向性	「くる・いく」は動作があるものに及ぶことを表す動詞につき、話し手の視点から見るその動作の向かう先へ到達する過程の具体的な方向性を付与する。	・男の人が、「早くはいてくれ。」と、言ってきました。 ・どしんとぶつかっていったら、お父さんは、僕を抱えて笑った。

注：用法④についての補足説明である。吉川 (1976) はこの用法において、「上がる、帰る、出る」などのような移動を表す動詞のほかに、「男の人が、『早くはいてくれ。』と、言ってきました。」の「言う」のような移動性のない動詞も挙げられている。他には、「視線を投げかけて～、ぶつかって～」などがある。これらの動詞は動作があるものに及ぶことを表す。この種の動詞に「てくる」がつくと、動作が話し手の関心のある所へ向かうという意味を表し、「ていく」がつくと、話し手がその側に立つ立場の主人公が他のものへ向かう動作を表す。すなわち、この場合、「てくる」と「ていく」は先行動詞の表す移動や動作に具体的方向性を示している。本研究では、このような用法を「移動・動作の方向性」と呼ぶことにする。さらに、この用法を「移動の方向性」と「動作の方向性」に分けて考察したいため、表に示

されているように下位分類をした。

表5、アスペクトに関する用法

分類	定義	用例	共起する動詞
①継続の過程	継続動詞性の動詞につき、動作の時間的持続を表し、継続性のない動詞につき、経験の積み重なる過程を表す。	<ul style="list-style-type: none"> ・「私は今日まで皆に軽蔑されて来ました。 ・「今後、どうして食って行くつもりなんだ。 	「生きて～、勤めて～、続けて～、積み重ねて～」など
②変化の過程	無意識性の自動詞につき、変化を表す動詞につき、ある変化が時間的に接近してくるあるいは遠ざかっていくことを表す。	<ul style="list-style-type: none"> ・書いて居る内に其父の顔は段々変わって行く。 ・すると、みるみるH氏の周囲の事情が変わって来た 	「落ち着いて～、(夜が)明けて～、腐って～、「悪くなつて～」など
③動作・作用の発生 (「てくる」のみ)	ある自然的な現象や心理状態、感覚の生起を表す。	<ul style="list-style-type: none"> ・何処からか腹力が湧いてくるような頼もしい蛮声だった。 	「(思いが)あふれて～」、「(考えが)浮かんで～」、「聞こえて～」、「雨が降って～」など
④消滅の過程(ていく)と出現の過程(てくる)	「ていく」「てくる」はそれぞれ消滅と出現の過程を表す動詞につき、その過程に具体的叙述性をあたえる。	<ul style="list-style-type: none"> ・心細く思いながら、消えていく白鳥のむれを見送りました。 ・ことばは生活の中から生まれてきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「失っていく」「死んでいく」「消えていく」など ・「あらわれてくる」「生まれてくる」「わいてくる」など

本研究では「ていく/てくる」の用法を大きく「移動に関する用法」と「アスペクトに関する用法」の2種にわけて、それぞれの下位分類を4種と規定している。なお、この8種類の用法には、「移動に関する用法」の中の①②③における「いく・くる」は本来の移動の意味で使われている。それに対して、「移動に関する用法」の④と全ての「アスペクトに関する用法」における「いく・くる」は本動詞としての移動の意味が薄まって、方向性やアスペクトという比較的抽象的な意味を表している。

第3章 移動に関する用法における「ていく/てくる」と「去/来」の対応状況

3.1 行為の順次性

「行為の順次性」という用法分類について、森田氏は「ある一地点にて何かをしてそれから行く、または来る」と定義している。つまり、先行動詞の表す行為が終わってから、「いく・くる」との行為に移るというプロセスである。この用法における中日対訳の例文を見ると、対応、不对応、さらに逆対応の場合があることが分かる。

・対応

- (1) 梶はナプキンを帯の間に、はさんだまま電話口へ立ち上がって行った。
梶腰带里照样掖餐巾，起身朝电话机走去。
「あした来る人」
- (2) 遭難者がいることが新聞に出っていたので、心配になって来たんです。
报上说有人遇难，就担心得跑来了。
「あした来る人」
- (3) 「待て、ビールを都合してくる」。
“等着，我去开啤酒来！”
「あした来る人」
- (4) 来る途中小間物屋で買って来た歯磨と楊子と手拭をズックの革靴に入れてくれた。
她把路上从杂货店买来的牙刷、牙签和毛巾，一起塞进我的帆布提包里。
「坊ちゃん」
- (5) 頼んでもらって来たのだから、今さら要らなくなったとは言えんよ。
托人要来的，现在怎么好说不要！
「あした来る人」

(1)～(5)の例文では、「立ち上がって行った」と「起身…去」、「都合してくる」と「開…来」、「買って来た」と「买来」、「心配になって来た」と「担心…来」、「もらってきた」と「要来」はそれぞれ対応している。行為の順次性を表す場合、日本語の「V+ていく/てくる」と中国語の「V+去/来」はある程度対応性を持っていることが伺える。

・逆対応

- (6) 「出てくるわよ」
“我出去一趟！”
「あした 来る人」
- (7) わいな、あした、その番頭はんのどこへ人形もっていってくるわ。
“我明天上那位管家处走一次，把竹偶给他带去。”
「越前竹人形」

しかし、以上の(6)と(7)の例文を見ればわかるように、「てくる」の場合、逆対応の例も存在する。(6)、(7)では、「出てくる」は中国語の「出去」、「いってくる」は中国語の「去」との逆対応の関係を持っている。張(2009)は、実は、日本語の「～てくる」は単行運動の他に、まずはある所へ行って、ある動作を完成してから、帰るという往

復運動を表す用法が存在し、それに対して、中国語ではこのような往復運動の「行く」の部分しか取り出さず、「来」の移動が見えないと指摘している。また張では次の例も挙げている。往復運動を表す「散歩してくる」「映画を観てくる」は中国語に訳すと、「去散歩（散歩に行く）」「去看电影（映画を観に行く）」になる。

つまり、日本語では「散歩してくる」を「散歩に行って、また帰ってくる」という全体の過程として捉えるのに対し、中国語では、その過程の前半、すなわち、先行動詞の表す動作のみを取り出して、「行く」を使うわけである。従って、例文の（6）（7）では、日本語の「出てくる」「もっていつてくる」というような往復運動を中国語で表現す際に、「出去」「带去」のように「去」を用いるのである。

また、（6）（7）の例文において、「去一趟」「走一次」などの表現が存在する。実は中国語では、「去一趟」「走一次」は「一度行って、また帰ってくる」という意味が含まれている。同じ用法としては「去一下」もある。実は、中国語では、往復運動を表す場合、「去」だけを用いて、「去一趟、去一下、走一次」などのように「一趟」「一下」「一次」の表現も一緒に用いて、戻る過程を含めた往復運動の全過程を捉えて表現する傾向がある。

なお、張（2009）は往復的な移動を表す「てくる」は中国語の「来」と対応する場合もあると指摘している。具体的には、日本語の「リンゴを買ってくる」は中国語では「买来苹果」と言っており、両者は対応関係を持っている。しかし、その中で一つ違う所としては、日本語の場合、この「来る」は動作主の移動行為を表すのに対して、中国語の「来」は動作の対象である「リンゴ」が「来る」ことを表すと張は述べている。

したがって、もし動作の対象が動作主に伴って「来る」という行為を行えば、日本語の「てくる」と中国語の「来」は対応するが、逆に、（7）の例文のように動作の対象が動作主に伴って移動しない場合、対応関係が成立しないという仮説を考えられる。以下で、さらに、いくつかの例文を見てみよう。

・対応

（8）「まあ、犬!いやだわ、帽子の中へ入れて来たりして」

“哎呀，狗？真是的，还装在帽子里拿回来！”

[あした来る人]

（9）世界万国の国旗を悉く借りて来た位、縄から縄、綱から綱へ渡しかけて、大きな空が、いつになく賑やかに見える。

仿佛把世界各国的国旗都借来了，纵横交错地系在绳子上，场面热闹非凡。

[坊ちゃん]

（10）三沢は大型タクシーを拾って来ると、杏子だけを助手席に乗せ、他の四人を客席に詰め込み、最後に自分もそこに割り込んだ。

三泽叫来一辆大型出租车，让杏子坐上助手席，又把其他四人塞进后座，最后自己也挤了进来。

[あした来る人]

・非対応

（11）赤手拭は宿へ忘れて来たのが残念だが今日は先方で借りるとしよう。

红毛巾忘在寓所了，真遗憾，今天只好在那边租用一下了。

[坊ちゃん]

（12）おれは新聞を丸めて庭へ投げつけたが、それでもまだ気に入らなかったから、わざわざ後架へ持って行って棄てて来た。

我把报纸揉成一团扔到院子里，但这样还不解气，又把它填到粪坑里。

[坊ちゃん]

以上の例文で示しているように、対応の例文には、対象語の「帽子」、「国旗」と「タクシー」がそれぞれ動作主と一緒に「くる」ことになっているが、非対応の例文には、対象語の「赤手拭」と「新聞」が各自にある地点に残され、動作主が他のところへ移動してしまっただけである。それに、すべての非対応の文において、中国語の訳文では、先行動詞の意味しか訳されなく、「来」は出現していない。

また、「ていく」を用いる場合にも同じような対応状況が存在する。

(13) 犬を取り返しに来ておいて、結局それを自分に置いて行った。

克平原来是取狗的，结果却把狗留给了自己。

「あした来る人」

(14) 力石医師の置いていった熱さましの内服薬が、翌日からの玉枝の唯一の治療薬となった。

力石医生开的清热的内服药就成了玉枝唯一的治疗药。

「越前竹人形」

例文(13)と(14)では「犬」と「内服薬」はそれぞれ現地に残され、動作主と一緒に「行く」という行為が行われなため、中国語では先行動詞の後ろに「去」は出現していないものと考えられる。

(15) でけたぶんだけもっていく。

并把完工的那部分给他带去。

「越前竹人形」

そして、(15)のように、動作主と対象が同時に「行く」場合、「行く」はきちんと中国語の「去」に翻訳される。しかし、この場合の「ていく」は動作の順次性を表すのではなく、「移動の状態」という分類に属するのである。

つまり、「ていく/てくる」は行為の順次性を表すときに、「ていく/てくる」の先行動詞が例文(1)(2)における「立ち上がる、心配になる」のような自動詞の場合、「ていく/てくる」と「去、来」は対応しているが、先行動詞が対象語を持つ他動詞の場合、対象語が動作主に伴って移動するならば、「ていく/てくる」は「去、来」と対応関係を持つが、逆に、対象語が動作主に伴って移動しなければ、対応関係が成り立たないと考えられる。

なお、例外として、「てくる」は往復的な移動を表す場合、先行動詞が自動詞(出てくる)、あるいは対象語が動作主に伴って移動しない他動詞(映画を観てくる)であるときには、「てくる」は中国語の「去」と逆対応している。

表6、行為の順次性における日中対応状況

自動詞		対応 (「てくる」は往復移動を表す場合のみは逆対応)
他動詞	対象語が動作主に伴って移動する	対応
	対象語が動作主に伴って移動しない	非対応 (「てくる」は往復移動を表す場合のみは逆対応)

3. 2 移動の方法

この用法分類では、先行動詞は「歩く」「走る」などのような様態動詞で、行く・来る動作がどのような手段や方法のもとに行われるかを表す。

まず、対応する例文から見ると、「歩いていく/くる」は「走来/去」、「走っていく/来る」は「跑来/去」、「乗ってくる」は「坐来」とそれぞれ対応することがわかる。この用法での「V+ていく/てくる」と「V+去/来」はかなり高い対応性を持っているといえる。

・対応

- (16) 八千代から言われたように、海の方へ向って歩いて行った。

他按八千代说的往海滨方向走去。

「あした来る人」

- (17) 克平はこの時刻に、日本橋の方から銀座の方へ歩いて行くのが好きである。

克平喜欢在这种时候从日本桥步行去銀座。

「あした来る人」

- (18) こちらへ歩いてくる女をみたたんんに、思わず咽喉から驚愕の声が走った。

他望着向自己走来的女子，喉咙里不禁冒出了惊愕的声音。

「越前竹人形」

- (19) 両側に墓地のある道を、自動車は速力を落すことなしに走って行った。

汽车沿着墓地一侧的道路，飞快地跑了过去。

「あした来る人」

- (20) 間もなく、向うからサイレンを鳴らした消防自動車が、ものものしい感じで走って来た。

俄顷，拉响警笛的消防车从对面惊心动魄地飞驰而来。

「あした来る人」

- (21) 人が二三人かけて来た。

两三个人跑上前来。

「あした来る人」

- (22) 汽車に乗って来たのなら、ひと風呂浴びて、さっぱりした方がいい。

坐火车来的，最好还是洗个澡，舒展一下。

「あした来る人」

対応例(16)～(18)では、日本語の「歩いていく」は、中国語訳文において先行動詞「走(歩く)」の後ろに「去・来」をつけて翻訳されている。それに対して、以下の例文(23)(24)では、同じ「歩く」が先行動詞であるが、「歩いていく」はそのまま中国語の「走」と訳され、「去・来」をつけていない。

- (23) 自分のペースを守って舗道を歩いて行くことに、ある快感を持っている。

他对按自己的行速在人行道上行走有着一种快感。

「あした来る人」

- (24) 喜助は温泉街を歩いていった。人通りは多かった。

喜助在温泉街上走过，路上的人很多。

「越前竹人形」

「走」は日本語に直訳すると、「歩く」という意味である。また、その場を離れる、そ

の場からなくなることを表すこともできる。王（2009）は中国語の「走（歩く）」と「跑（走る）、飞（飛ぶ）、游（泳ぐ）」などのような様態を含む移動動詞を様態移動動詞として分類している。また、王（2009）は本来なら中国語は「走」のような様態移動動詞の後ろに方向補語「来/去」などを付けて動補構造で表現するはずなのに、「彼はもう帰っていた（他已经走了）」のような様態動詞「走」だけで表現するのは「中国語の表現は移動の様態、過程に焦点を当てがちという傾向が存在するからである」と述べている。

（16）～（18）の日本語の例文を再び確認すると、「歩いていく/てくる」の前に、「海のほうへ」「銀座のほうへ」「こちらへ」といった方向性を示している短文が書かれている。つまり、これらの例文では、どこからどこへといったような方向性がより強調されている。これに対して、（23）（24）では、特定の方向性が示されていない。従って、（23）（24）の例文では、歩くことを様態動詞「走」だけで表現してもよいのに対し、（16）～（18）では移動の様態、過程に焦点を当て「走」だけを用いて表現するのが不十分で、方向補語「去、来」をつけて方向性を示さなければならぬと考えられる。

また、例文（25）のように、中国語訳文において、様態移動動詞だけを用いて表現する訳文と、様態移動動詞の後ろに「去/来」をつけて表現する訳文との両方とも存在する状況もある。

（25）吸いかけた巻烟草を海の中へたたき込んだら、ジュと音がして艀の足で掻き分けられた浪の上を揺られながら漂っていった。

訳文1、我把吸剩的烟头抛进海里。“嗤”的一声，烟头随着被桨划起的浪花摇摇晃晃地漂走了。

訳文2、我把吸剩的烟头扔进水里。烟头啞地一声，在櫓端搖蕩着，随着水花飄浮而去。

「坊ちゃん」

つまり、移動の方法を表す移動様態動詞（歩く、走る、など）が先行動詞として用いられる「移動の方法」という用法において、日本語では「ていく/てくる」を先行動詞の後に付属してどのような方法で移動することを表すのに対して、中国語の表現は移動の様態、過程に焦点を当てがちであるため、明確な移動経路や方向性が文中で提示されていない場合、様態移動動詞だけで表現することもできるし、様態移動動詞の後ろに「去/来」をつけて表現することもできる。しかし、明確な移動経路や方向性が文中で提示されている場合だけは「去/来」を使わなければならない。

3.3 移動の状態

日中対訳の例文を見てみると、この用法では、日本語と中国語訳文の対応率が比較的に高いことが分かる。対応する用例の中では、先行動詞として「持つ」が一番多く出現していて、他には「つく」、「連れる」などが確認された。

・対応

（26）わいが人形もっていく。

我得把竹偶带去。

「越前竹人形」

（27）一体、どのくらいの金を持って行くんです？

究竟带多少钱去？

「あした来る人」

(28) 「金を集めるのにも、たいして頭を下げないで集める。大威張りで持ってくる。あの才能だけはたいしたものだ」

拿筹款来说，他不怎么低声下气就把钱弄来了，趾高气扬地弄来了。只这个能耐非一般人可比。”

「あした来る人」

(29) 亭主が茶を飲みに来るだけなら我慢もするが、色々なものを持ってくる。

房东只是过来喝喝茶，我倒也罢了，他还拿来了好多东西。

「坊ちゃん」

(30) 向島のおばはん¹に会うてくるのんもええけど、あんたがひとり²でいくより、わいもついていくとええがのう。

向島の姑母也是要去见见的，不过我陪你一起去，要比你一个人去好得多。

「越前竹人形」

(31) 鮫島は好奇な眼もとでこの光景をみていたが、喜助が母屋の方へ案内するので、作業場をもう少し見学したい心のこりの顔をしながら、尾いていった。

鮫島以好奇的眼光望着这番情景，由于喜助在前面带路往正屋走去，鮫島只好带着想再稍稍参观一下作业场的遗憾神情，尾随喜助而去。

「越前竹人形」

(32) 御婆さん、東京へ行って奥さんを連れてくるんだと答えて勘定をすまして、すぐ汽車へ乗って浜へ来て港屋へ着くと、山嵐は二階で寐ていた。

俺说：“大娘，俺这是去东京，把俺太太接来。”俺算还了房费，立刻坐小火车到海滩去，进了港屋，“豪猪”正在楼上睡觉呢。

「坊ちゃん」

しかし、(33)と(34)の非対応の用例の中でも、「持つ」などのような対応例で用いられる先行動詞も見られる。

(33) これから病院に行ってもらうわけだが、やはり何か持って行く方がいいかな。

你这就去医院一趟。还是要带点什么东西吧。

「あした来る人」

(34) ところが行くときは必ず西洋手拭の大きな奴をぶら下げて行く。

我每次去时，总是拎着西式大毛巾。

「坊ちゃん」

(33)と(34)の例文には、中国語の訳文では、「V+ていく」という形において先行動詞Vの意味だけを訳され、「去」は省略されている。しかし、例文(26)(27)の場合、同じ動詞「持つ」が先行動詞であるが、「持っていく」は「带去」と対応関係を持っている。これらの例文を比較すると、(26)(27)の例文においては「いく」という言葉が一回しか出現していないのに対し、(33)、(34)では「いく」が前文にも後文にも存在することが分かる。しかし、中国語では、後文の中の「V+去」の「去」は省略されている。(33)(34)の例文において、中国語では後文の「去」が省略されているのは前文における「去」との重複を避けたいからではないかと考えられる。

(35) おれと山嵐をぐいぐい引張って行く。

拉起我和豪猪就走。

「坊ちゃん」

(36) こう考えて、いやいや、附いてくると、何だか先鋒が急にがやがや騒ぎ出した。
俺一边这样左思右想，一边心烦意乱地跟着队伍向前走(去)。

「坊ちゃん」

また、(35)と(36)の例文のように、「ていく/てくる」は「去/来」ではなく、前述した「その場を離れる、その場からなくなること」と「歩くこと」を意味する中国語の「走」に訳されている場合もある。王(2009)は日本語では「行く」「去る」「帰る」などの経路移動動詞を使うところに、中国語では、「去」ではなく、様態動詞「走」を用いるのも中国語の表現は移動の様態、過程に焦点を当てがちであるという指摘している。

つまり、「移動の状態」という用法において、「持っていく―帯去，連れてくる―接来」のように、「いく・くる」も「去/来」も移動するときの状態を表す動詞の後につき、何かを伴って移動することを表し、日中両言語における対応性がかなり高いと言える。しかし、中国語の表現では、「いく・くる」という移動行為の様態、過程に焦点を当て、「去/来」の代わりに、「先行動詞+移動様態動詞『走』」を用いて表すこともできる。また、複文において、前文にて移動行為を表す「去/来」がすでに出現している場合に、後文での「V+去/来」の中の「去/来」は脱落する現象がある。

3. 4 移動・動作の方向性

3. 4. 1 移動の方向性

「ていく/てくる」は移動の具体的な方向性を表す場合、先行動詞としては、「上がって～、帰って、近寄って～」などの移動動作性の自動詞が用いられると森田氏が指摘している。

この用法の「ていく/てくる」に関する例文は、この四つの分類の中で一番多く集められた。対応例として、「入って～、出て～、上がって、下りて～、帰って」などが多く集められた。杉村(2000)が“上(上がる)、下(下りる)、進(入る)、出(出る)、回(帰る)、过(通る)、起(起きる)”などの移動動詞は“来/去”を伴って始めて述語として十分な表現性を獲得すると指摘している。従って、移動の方向性を表す用法では、日中の対応関係がかなり緊密であると言えよう。

・対応

(37) 馴染の芸者が這入ってくると、入れ代りに席をはずして、逃げるなんて、どこまでも人を胡魔化す気だから気に食わない。

相好的艺妓一进来，他就马上离席而去，溜之乎也，以为这就可以骗过人的耳目，真让俺看不上！

「坊ちゃん」

(38) 喜助はいい、やにわに炉端を立て、上りがまちから草履をつっかけ、表へ出ていくのだった。

喜助接嘴说了之后，猛然从炉边站起来，到门槛处趿了一双草履走出门外，像是上作业场去了。

「越前竹人形」

(39) 杏子は二人が出てくるまで、そのままそこに立っていた。

杏子依旧站着没动，直到两人从里边出来。

「あした来る人」

- (40) 喜助は玉枝のいうままに、上り口にゴムの長靴をぬいで上っていった。
喜助便听从玉枝的话，在去里屋的阶梯口脱下了长统胶靴，向里屋走去。
「あしたくる人」
- (41) 玉枝はなんとなく勇気が出てきて、くの字にまがった土堤の小道を下りていった。
玉枝不知怎么来了勇气，从“之”字型的堤上小道走了下去。
「あしたくる人」
- (42) 「帰ってくるか、帰って来ないか、向うでよく考えを決めます」
“回来还是不回来，在那边好好想想再定。”
「あした来る人」
- (43) 夏の陽にきらきら輝いている入江を横切って、船は真直ぐに岬に向って行く。
穿过夏日阳光下浮光耀金的海湾，径直向海角开去。
「あしたくる人」
- (44) 急にやさしい言葉になった忠平が、顔を近づけてくる。
忠平的话忽然温存起来，脸也在一点点靠上来。
「越前竹人形」

しかし、その中で、対応例に用いられる移動動詞を先行動詞として用いても、逆対応と非対応の状況も存在する。

まずは、非対応の例文から見てみよう。

・非対応

- (45) 杏子は一刻も早く大貫家から遠ざかるために、足早にゆるやかな傾斜をなしている路地を下って行った。
为了尽快把大贯家远远抛在后边，杏子脚步匆匆地走下慢坡胡同。
「あしたくる人」
- (46) 一同はまた三沢のあとについて、人の流れの中にはいった。そして途中から流れを抜けると、真暗い急な坂を上って行った。
大家跟着三泽，杀入人流之中。途中突围而出，爬上一条黑漆漆的坡路。
「あしたくる人」
- (47) 八千代がそれみたことかといった面持ちで、居間へ入って行く。
八千代一副理直气壮的神经，走进起居室。
「あしたくる人」
- (48) 克平は大急ぎで着替えをして、座敷へはいつて行った。
赶紧换上衣服，步入客厅。
「あしたくる人」
- (49) エレベーターで三階に上がり、長い廊下を通って行く。
乘电梯上到三楼，穿过长长的走廊。
「あしたくる人」

これらの例文において、日本語では「ていく/てくる」が出現するのに対して、中国語訳文ではそれぞれ「走进、走入、走下、爬上、穿过」のように移動動詞としての先行動詞の意味だけを訳され、「去、来」は出現しない。丸尾(2005)は、中国語の移動動詞を述語として用いた場合、「文法的な独立性の弱さ」という統語的制約があるため、通常移動動詞が述語となった場合、場所目的語あるいは「来/去」などととも用いられると述べ、

次のような例を挙げている。

君は昨日何時に帰ったの。

a. *你昨天几点回的？

b. 你昨天几点回去的？（+“来/去”）【主観的】

c. 你昨天几点回家的？（+場所目的語）【客観的】

以上の例に示されているように、一般的に、中国語では「帰った」をaのように移動動詞「回」だけに訳さない。「回去」「回家」のように、「回」の後「去/来」あるいは場所目的語（家）を付け加える必要がある。丸尾は「移動動詞+去/来」と「移動動詞+場所目的語」が意味的には主観的か客観的かという違いはあるものの、統語的には同じ役割を果たしていると指摘している。この「主観的」というのは「去/来」によって「帰る」という移動行為が話し手から遠ざかるか話し手に近づくかという意味での話し手の主観的な意思が含まれることを指す。それに対して、「客観的」というのは話し手から遠ざかるか話し手に近づくかという話し手の視点に関わらず、「帰る」という移動行為の目的地、「家」という客観的な場所目的語が提示されることを指す。

上に挙げた中日対訳コーパスの例文では、「来/去」が用いられていないけど、その代わりに「走下饭店楼梯（ホテルの階段を下りって行った）、走下胡同（路地を下って行った）、爬上坡路（坂を上って行った）、走进起居室（居間へ入って行く）、步入客厅（座敷へはいつて行った）、穿过走廊（廊下を通って行く）」のように移動動詞の後ろに起点や通過経路を表す場所目的語がすべて付いている。

しかし、場所目的語がついている文では、必ずしも「去/来」が出現しないわけではない。例えば、以下の例文では、中国語訳文において、下線部はすべて「移動動詞+場所目的語+去/来」という形になっている。ここでの「去/来」も先述した「移動動詞+去/来」の中の「去/来」と同じように、先行動詞の表す移動動作に具体的方向性を加え、話し手の視点を導入する役割を果たしている。

（50）言葉少なにそれだけいって、藪の中へ入っていくのだった。

喜助不再多说，便走进 竹丛中 去了。

「越前竹人形」

（51）しばらく、壁にかけてある小刀や、弦掛糸鋸や竹割鉋や、挽鋸などのならんだ道具をみていたが、ひとりで母屋へ帰っていった。

她对并排挂在壁上的刀、带弓的钢丝锯、剖竹刀、拉锯等工具看了一会儿，便独自

回 正屋 去了。

「越前竹人形」

森田（1968）によると、「帰ってくる、入ってくる、出ていく」などのような「移動動詞+去/来」との形の中の移動動詞「帰る、入る、出る」など自体に方向概念を持った移動の意が含まれている。例えば、「帰る」という語には対象たる素材が自分の家（または出発点）へと移動することを表す。ただし、「帰る」自体が持つ方向性は素材間における方向性であり、話し手との関係における方向性ではない。「帰る」に付加する「いく・くる」は移動を表すというより、話し手側から移動するのか話し手側へ移動するのかという「帰る」行為の具体的方向性を付与する。中国語の「去、来」も同じ働きをしているが、（45）～（49）の非対応例から確認できるように、「去、来」を使わずに、「移動動詞

+場所目的語」という形でも表現できる。

つまり、日本語では「移動動詞+ていく/てくる」という形を用いて移動の方向性を表す場合、それに対する中国訳文では、「移動動詞+去/来」という形で表現することができるとともに、「場所目的語」が文中に存在する場合、「去/来」を省略して、「移動動詞+場所目的語」という形を用いて表現することもできる。

それに加えて、非対応の例文の中では、次の例文のように、「流れていく」は「流向」、「上って行く」は「涌向」、「帰ってくる」は「回到」、「訪ねていく」は「到」とのように日本語の「移動動詞+ていく/てくる」は中国語では、「移動動詞+前置詞（向/到）」という形に訳されるケースが多く存在する。

(5 2) この溪谷の流れが遠く郷里まで流れて行くのかと思うと、やはり多少の感慨なきを得なかった

想到这道山水将远远流向自己的故乡，她不禁生出几分感慨。

「あしたくる人」

(5 3) 急に眼頭にのぼってくる熱いものをおさえながらいった。

玉枝觉得有一股热流在很快地涌向头部，她竭力压抑着。

「越前竹人形」

(5 4) それからうちへ帰ってくると、宿の亭主が御茶を入れましようと言ってやって来る

回到寓所，房东走进来说：“沏杯茶吧。”

「坊ちゃん」

(5 5) いつも知らないところを訪ねて行く時はこうである。

每次到陌生之地，从没有一次顺利过。

「あしたくる人」

丸尾 (2005) によると、中国語では方向補語のみならず介詞（前置詞）によっても経路表現でき、中には着点を表す「到」と方向を表す「向」などがある。例えば、

- 跑到火车站
「駅に走っていく」
- 向火车站方向跑
「駅の方へ走る」

「到」は着点への到着が明確にするとともに、「向」は着点が必ずしも駅であるとは限らないという意味で単なる方向を表していると丸尾は指摘している。この意味では、「到」は日本語の「まで」と、「向」は日本語の「へ」と相当する意味を持つと言える。

次に、以下の逆対応の例文を見てみよう。

・逆対応

(5 6) 途中から小倉の制服を着た生徒に沢山逢ったが、みんなこの門を這入って行く。

路上碰到许多身穿棉布制服的学生，都从这大门进来。

「坊ちゃん」

ここで、「入っていく」は「进来」と訳されている。なぜこのような逆対応の状況が起きるかという、実は、原因は日本語と中国語の視点の違いにある。大江 (1975) は「視点」とは「話し手が現実位置しようとしまいと、描かれる動きを彼がそこに身を置いて眺めるような場所」とであると定義している。つまり、視点というのは話し手が出来事を語

るときの立脚点である。また、視点の置くところの違いによって、移動動詞の選択にも影響を及ぼす。

森田氏（1996）は以下のように述べている。

「話者の視点から語を使い分ける例の代表は「行く」と「来る」である。自己側への移動が「来る」で、自己側からの移動が「行く」であることが夙に知られているが、それは辞書の意味においての視点で、語の運用における話者の視点とは別と考えるべきである。表現の文脈の中で、話者がどの視点に立つかという問題は「行く/来る」の語彙選択を左右する重大な事柄で、文脈的意味として把握する必要がある。」

すなわち、同じ移動行為に対して、日中両言語は正反対の方向性を表す補助動詞を選ぶのは、視点の置く場所の違いによるかもしれない。例文（56）の中で、「門に入る」という行為に対する叙述において、日本語では「ていく」を使うのは、語り手は自分の視点を「この門」の外に置いて、「生徒」たちが門の中へ入る行為を自分から離れる移動行為として捉えるからである。それに対して、中国語では、視点を門の中に置き、「生徒」たちの移動行為を自分に近づける行為として捉え、「生徒」たちを迎える立場に立って、「来（来る）」を使うのである。他には、（57）（58）もこういう視点の違いから解釈できる。

（57）喜助は喜左衛門の墓石の前に額をすりつけるようにしてさげぶと、やがて一目散に丘を下りていった。

他的前额几乎要擦着喜左卫门的墓碑。接着，他一溜烟地从山丘上下来了。

「越前竹人形」

（58）喜助は立ち上ると、きょんとしている玉枝をそこに残して、そそくさと「花見家」を出てくるのであった。

喜助站了起来，留下茫然若失的玉枝，急匆匆地从“观花院”出去。

「越前竹人形」

3. 4. 2 動作の方向性

移動の方向性を表す用法と比べると、動作の方向性を表す用法の例文はそれほど多くないが、その中で、対応例が大部分を占めている。例えば、（59）～（63）の例文のように、「視線を投げていく」は「放眼……看去」、「襲ってくる」は「压来」、「顔を打ってくる」は「扑面而来」、「逆振を食わして来る」は「反扑过来」、「電話がかかって来た」は「打来了电话」とそれぞれ対応している。

（59）そして、その銀座の裏通りがかなり新橋に近くなると、克平は両側の店の一軒一軒に視線を投げて行った。

当克平沿着銀座后街快要走到新桥时，他放眼向两侧鳞次栉比的店铺看去。

「あしたくる人」

（60）梶の身体をめがけて襲ってくるおびたしい用件のうちの、ざっと二割はこうした種類の、厳密に言えば、彼自身にはあまり関係のないことであった。

朝梶大助身上压来的不可胜数的事务当中，大约有二成属于此类，严格说来与他本来无甚关联的事情。

「あした来る人」

（61）研究室独特の薬品臭い冷んやりしたにおいが顔を打って来た。

研究室里特有的药味带着一股凉气扑面而来。

「あしたくる人」

(62) ところがこっちから返報をする時分に尋常の手段で行くと、向から逆振を食わして来る。

但是，如果我用寻常的手段回敬他们，他们就会反扑过来。

「坊ちゃん」

(63) 大阪から上京して築地の第三ホテルに泊っている父親から電話がかかって来たのである。

正拾缀着，从大阪来京住在第三饭店的父亲打来了电话。

「あした来る人」

しかし、非対応の例(64)(65)では、「言葉かけていく」「話をかけてくる」のような日本語が中国語では「搭话(話をかける)」「交谈(話し合う)」に訳されている。「*搭话去」「*交谈来」のような「動詞+去/来」という動補構造は中国語では存在しない。また、日本語の「○○に言ってくる」という表現も中国語では「说来」とは言わない。つまり、日本語では話すという動作の向かう先を表す場合、「話をかけていく/くる」「言ってくる」のように、「ていく/てくる」を用いるのに対して、中国語では「V+去/来」を一般的に使わない。

(64) 結局は八千代の方から言葉をかけて行く。

终归还是由八千代主动搭话。

「あしたくる人」

(65) ところが、いま、昔馴染みの男、崎山が眼の前に現われて、眼尻に皺をよせながら話しかけてくる姿をみていると、ふっと、玉枝は昔にかえった。

然而，眼下出现了崎山这个老相识，看到崎山皱着眼角的皮肤以及那种交谈的样子，玉枝突然回到了从前的日子。

「越前竹人形」

また、以下の例文で示されているように、日本語では「要求してきた、注文してきた」のような表現が存在するが、中国語の場合、「要求来，订货来」のような表現も存在しない。

(66) 酒井信輔の方から逆に連絡を要求されて来たことを知って、血が顔に上がって行った。

现在得知酒井信辅反而主动要求同其联系，不禁血往上涌，深感汗颜。

「あした来る人」

(67) 竹人形をみた小売屋は、「兼徳」へ翌日から電話で注文してきた。

从第二天起，看见过竹偶的小商店纷纷打电话给“兼徳”，要求订货。

「越前竹人形」

3. 4. 3 まとめ

・移動の方向性

日本語にも中国語にも、「移動動詞+ていく/てくる」あるいは「移動動詞+去/来」という形を用いて移動の方向性を表す用法が存在するため、「入ってくる/ていく一进来/进

去、出てくる/ていく—出来/出去、上がってくる/いく—上来/上去、下りてくる/いく—下来/下去、帰ってくる/いく—回来/回去」のように日中両言語ではかなり多くの対応例を確認できた。

しかし、以下のような非対応と逆対応の状況も存在する。

「場所目的語」が文中に存在するとき、中国語では、「去/来」を省略して、「移動動詞+場所目的語」という形を用いて移動経路を表現できる。また、中国語において、方向補語のみならず前置詞によっても経路表現できるため、「去/来」の代わりに、「移動動詞+前置詞（向/到）」という形を用いて移動の方向性を表現することが可能である。さらに、話し手の視点の置く場所の違いにより、「ていく/てくる」は「去/来」は逆対応の関係になる。

・動作の方向性

先行動詞が移動性動詞ではなく、動作性動詞になると、日中両言語における対応性がそれほど高くないのである。また、用いられる先行動詞は「投げる、襲う、打つ、食わす」などのような、身体的な動きによって引き起こされた実質的な影響を相手に及ぼすことを表す動詞である場合は、「ていく/てくる」は「去/来」は対応できる。しかし、先行動詞は「話しかける、言う、要求する、注文する」のような実質的な動きではなく、相手に対して何らかの手段を通して話し手の意思や要求を伝えることを表す場合、日本語では「ていく/てくる」を用いてその動作の具体的方向性を表すが、中国語「去/来」はこのような動詞と共起することが不可能であるため、日中両言語は非対応の関係になる。

第4章 アスペクト用法における「ていく/てくる」と「去/来」

の対応状況

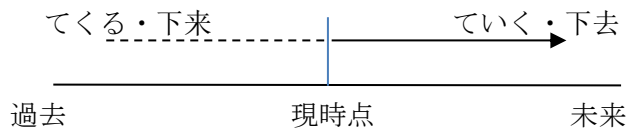
ここまでは、「ていく/てくる」と「去/来」の空間的移動を表す意味における対応状況を考察した。以降、アスペクトを表す「ていく/てくる」と「去/来」に関する考察をしていきたい。2. 3節の表5にも述べたように、「ていく/てくる」のアスペクトを表す用法には、「継続の過程、変化の過程、動作・作用の発生（てくるのみ）、出現の過程（てくるのみ）と消滅の過程（ていくのみ）」のような四つの用法分類がある。それぞれの用法における日中両言語の特徴と対応関係を探っていきたい。

4. 1 継続の過程

この用法では「ていく/てくる」は「生きる」「勤める」「続ける」などの継続性あるの動詞につき、動作の時間的持続や経験の積み重なる過程も表す。吉川氏（1976）では、「てくる」はある時点までの継続、「ていく」はある時点からの継続を表す用法があると指摘している。簡単に例を挙げると、「ここまで成長してきた」「これから生活していく」などの例文がある。

中国語では、継続の過程を表す日本語の「ていく/てくる」に相当する意味を持つ「下来/下去」という方向補語が存在する。「下去/下来」は方向動詞「下」と「去/来」を組み合わせた複合方向補語である。丸尾（2005）は、「補語“下来”“下去”の代表的な派生義として「継続義」があげられる。一般に前者は『過去から現在までの継続』、後者は『これから引き続き行われること』を表すとされる。

図1. 「ていく/くる」と「下来, 下去」の継続を表す基本義



したがって、日本語の「ていく/てくる」と中国語の「下去/下来」は継続を表す意味では一定程度の対応性を持っていると推測される。ここでは、実際の中日対訳コーパスから集めてきた例文を挙げながら、考察を進めてしていきたい。

4. 1. 1 「てくる」と「下来」の表す継続の過程

日中対訳コーパスの例文を集めているうちに、まずは、「てくる」と「下来」の対応例の数は「ていく」と「下去」の対応例の数に比べるとかなり少ないことに気づいた。

杉村 (1983) は、現代中国語における空間運動を表す“・下来”“・下去”が、「継続」という時間の概念も表せると指摘した。杉村 (1983) によれば、中国語の“上”は上の方向または過去を表し、“下”は下の方向または未来を表している。“・下来”と組み合わせて用いられる動詞は“・下去”の場合と比べて極めて少ない。“下来”と組み合わせて用いられる動詞として“传(伝わる)、流传(伝わる)、保存、生存、坚持(堅持する)、活(生きる)、过(過ごす)、拖(延ばす)”などが挙げられている。これらの動詞に共通する意味特徴は“无尽期”(終わりのない)であり、“有始有终”(ものごとを最後まできちんとやり遂げる)の意味を含まず、更に「発生」とも「終結」とも関係しないことが指摘されている。また、ある時点において、ある行為状態がその時点まで持続する過程を振りかえながら、その行為が未来へも持続、存在する意味も含まれる場合、「下来」が用いられると解釈している。

杉村 (1983) によれば、継続の意味を表す「下来」は多くの場合このような「終わりのない」の動詞につき、動作行為が過去からある時点まで継続することを表し、終結という意味が含まれないのである。以下の例文で示されているように、「下来」はこのような「活、保存」のような「終わりのない」動詞と組み合わせて、継続を表す意味では日本語の「てくる」と対応している。

(68) 我就是这样活下来的。

私はこんな風にして生きて来たのです。

「ころ」

(69) 共に昔流行した着物を保存して来た家のものだろう。

看来, 都像是把过去流行的服装保存下来的人家。

「黒い雨」

しかし、もし「下来」が「終わりのある」動詞の後に置かれると、その時の「下来」は継続を表さず、その代わりに、動作行為が最初から最後まできちんとやり遂げること、つまり「完成義」を表すのであると杉村は指摘している。例として、写下来(書き留める)、

背下来（暗誦する（しておく））、从头到尾听下来（最初から最後まで聞き通す）などがある。

『小学館 中日辞典』第2版（2003年）では複合方向補語「下来」の用法について以下のような記述がある。

- 1) 過去 (=上) から現在 (=下) まで安定的に続いてきたこと表す。例えば、保存～/保存されてきた；坚持～/やり通してきた；这是古代流传～的一个故事/これは昔から伝えられてきた物語だ。
- 2) ある事柄が完了するまでの全過程を表す。例えば、算～、……/計算してみれば、…；做～了/作り上げた。やりおおせた。
- 3) 動作が完了した結果、「安定した」かたち（忘れたり、失ったり、なくなったりしない）で残存し、話し手に帰属してくることを表す。写～/書き留めておく；留～/取っておく；抄～/書き写しておく；录～/録音しておく；背～/暗誦する（しておく）。

以上の三つの用法を見てわかるように、1)の用法は杉村の挙げた「終わりのない」動詞について、「継続義」を表す用法と共通するのである。また、杉村が指摘した「終わりのある」動詞につき、「完成義」を表す用法をアスペクト的により細かく分類すると、2)と3)になるのである。ただ、3)の用法では、「下来」は「写（書く）、背（暗誦）、留（とる）、剩（残す）、买（買う）」などのような結果を生み出す動詞と共起し、動作完了後に残される結果を強調する。この場合、「下来」は日本語の「てくる」の代わりに、「ておく」と相当する意味を持つといえる。

この「下来」の持つ三つの意味を時間軸で表現すると、以下のようなになる。

図2. 「下来」のアスペクト的意味

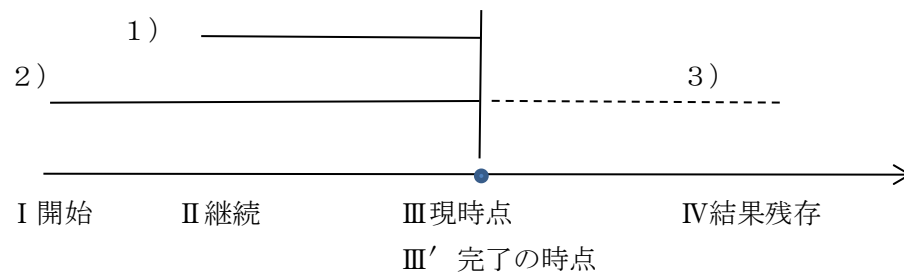


表7. 「V+下来」のアスペクト的用法

先行動詞V	時間軸における段階	用法	用例
終わりのない	II 継続～III 現時点	1) 過去から現在までの継続	保存～（保存してきた）； 活～（生きてきた）； 传～（伝わってきた）。
終わりのある	I 開始～II 継続～III' 完了の時点	2) 最初から最後まで継続する全過程	算～、……（計算してみれば、…）； 做～了（作り上げた）。
	III' 完了の時点～IV 結果残存	3) 結果残存	写～（書き留めておく）； 留～（取っておく）； 抄～（書き写しておく）；

それに対して、日本語の「てくる」は「終わりのない動詞」の後についても、「終わりのある動詞」についても、1)「過去から現在までの継続」という用法しか持たない。したがって、保存(保存する)、活(生きる)、伝(伝わる)などのような「終わりのない動詞」と共起する場合、「てくる」と「下来」は対応関係を持つといえる。

また、「終わりのある動詞」を用いる場合、中国語の「下来」は2)「最初から最後まで継続する全過程」あるいは3)「結果残存」を表すので、一般的に、「てくる」とは対応しないと考えられる。3)「結果残存」を表す場合、日本語は「てくる」を用いるのではなく、「ておく」を用いるため、この用法を本対照研究において考慮しないことにする。

ここで、2)「最初から最後まで継続する全過程」という用法に目を向けたい。例えば、以下(70)の例文では、「いう」という動作を最初から最後までやり遂げたことを表現する際に、中国語では「说下来」のように「下来」を用いるのに対して、日本語訳文では「てくる」を使うことが不可能である。

(70) 这几句话是一口气说下来的，根本不容别人插嘴，也没等别人转过向来，他就一步跨到门口，冲着院子喊。

張金發はそこまで一気にいってのけると、誰にもひとことの口出しにもさせず、気を変えるすきも与えず、サッと戸口に出ると、庭に向かって怒鳴った。

「金光大道(輝ける道)」

もう一方、日本語では「終わりのある動詞+てくる」という形式が用いて「過去から現在までの継続」を表す場合、中国語での「下来」の使用も一般的に許容されない。

(71) 自分は克平と結婚してからいままですと、今の夢の中の出来事を繰返して来たと思う。

她觉得，自己同克平结婚以来，日子始终是刚才梦境的循环反复。

循环反复下来 (*)

「あした来る人」

(72) 根は大学を出てから今日まで、日本中の至るところの漁村で、こうして温かく土地土地の人たちに送られて来た。

大学毕业直至今天，在日本各地每一座渔村里，他无不受到当地人们如此充满温情的送行。

当地人都充满温情地给他送行下来 (*)

「あした来る人」

(73) 私これまでの人生で十分傷ついてきたし、これ以上傷つきたくないの。幸せになりたいのよ。

在过去的生活中我已经被伤害得够厉害了，不想再受下去，我要活得快活些。

伤害下来 (*)

「ノルウェイの森」

(74) 彼はその『問題』を解決しようと、これまでに様々な治療を受けてきました。

他为了解决这个“问题”，至今为止接受过种种治疗。

接受下来 (*)

「1Q84B00K2」

(71) ~ (74) のいずれの例文における動詞は「下来」とは共起できない。そうしたら、これらの例文において、中国語ではどのように「継続の過程」という意味合いを適

切に表せるのかを疑問に思われるかもしれない。張 (2009) では、中国語ではある動作の持続を表現する場合、この動作が時間軸でどのように移動するかを日本語のように強調されなく、さらに「去」「来」の使用より、時間的副詞の使用がもっと一般的であると指摘している。以上の例文では「以来 (してから)、大学毕业直至今天 (大学を出てから今日まで) 至今为止 (これまで)」などのような時間的副詞が存在している。中国語では、時間的副詞だけを用いても継続の過程を十分表現されるので、これ以上方向補語「去/来」を使わなくても意味的に別に支障はないと考えられる。

しかし、「終わりのある」動詞を用いるときに、日中両言語が必ず対応できないとは言いきれないのである。陳 (2017) は下の例文を挙げている。

A1 今まで 日本語を 勉強してきました。

「^{勉強する}学 ^{日本語}日语 ^{今まで}至今」。

A2 今まで 日本語を 勉強してきて、 もう 話せるようになった。

結果による影響：日本語が話せる

「^{日本語}日语 ^{今まで}至今 ^{勉強する}学 (^{てきて}下来) ^{もう}已经 ^{話せるようになった}能说了。

陳 (2017) は「ていく/てくる」と「去/来」の「継続用法」における対応状況について分析するとき、先行動詞を「継続可能動詞」「反復可能動詞」と「結果残存動詞」に分けて考えている。「継続可能動詞」(「終わりのない動詞」に相当)を用いる場合、日中両言語は対応するが、「反復可能動詞」(「終わりのある動詞」に相当)が先行動詞になる場合、「てくる」と「来」は基本的に A1 のように対応しないのである。理由としては、日本語「てくる」は基準時点までの累積状況を強調するため、ある時点での静態的な結果を表す傾向を持つ。このような「てくる」は進行する動態のイメージが「ていく」より薄く、移動のイメージが強く残る中国語「来」と対応しにくい。一方、A2 のような対応する場合も存在する。その理由は A2 において、動作反復の結果による影響が後続し、自然に「動作反復一段階の結果—影響」のような動的に進む流れができたからである。

陳では中国語「来」の動的イメージに焦点を当てて分析されたが、私は「来」によって構成される複合方向補語「下来」を一つのまとまりとして、その意味用法に注目して考えたほうがより適切ではないかと考え、以下でその根拠を示す。

「下来」は「終わりのある動詞」、「(学)勉強する」の後につき、「最初から最後まで続けること」を表す。A1 では単なる「日本語を勉強してきました」という継続の過程を述べているのに対して、A2 では後半部分には、前半の行為による結果が提示されている。つまり、A2 には「今まで日本語を勉強し続けることを最後までやり遂げた結果、話せるようになった」という意味合いが含まれている。したがって、「日本語を勉強してきました」という継続過程に対して、今までの学習過程を最初から最後まですべて想起させ、振り返ってみるというニュアンスが含まれている。そのため、中国語の訳文において、A1 の純粋な継続を表す場合、「下来」が使われないのに対して、A2 において、今まで日本語を勉強してきた全過程を表す場合には使われるようになったのである。

ほかには、以下のような例文もある。

(75) 私おじいさん、おばあさん、お母さん、お父さんと四人看病してきたからよく知ってるのよ。

爷爷、奶奶、妈妈、爸爸，四人的病我一直照看下来的，经验丰富着哩。

「ノルウェイの森」

ここの「よく知ってる」もおじいさん、おばあさんなど四人の看病をきちんとやり遂げて、経験を積み重ねてきた結果である。ここでの「下来」も同じように四人を看病し続けてきた全過程を強調する働きを果たしている。

つまり、継続過程によって得られた結果が文中にあげられる場合、「終わりのある」動詞を用いても、日本語「てくる」と中国語「下来」は形式的に対応できるといえる。なお、意味的には、この場合、「てくる」は継続の過程を表すに対して、「下来」は最初から最後まで継続する全過程強調すると言える。

ちなみに、継続義の「てくる」と対応できる中国語は「下来」のほかに、「过来」もある。「过来」も同じ複合方向補語で、空間的移動を表すと同時に、時間領域でも用いられる。王(2007)によると、「过来」は現在に視点を置き、過去から現在に向っていることを表す。

(76) あらゆる事業を、彼はこのようにしてやって来たのである。

所有的事业他都是这样干过来的。

[あした来る人]

(77) 玉枝はん、あんたはわいのお母はんや、わいはそない思うて、今日まで暮してきたんやがな。

玉枝姐，你是我的母亲呀。我一直是这样想着生活过来的。

[越前竹人形]

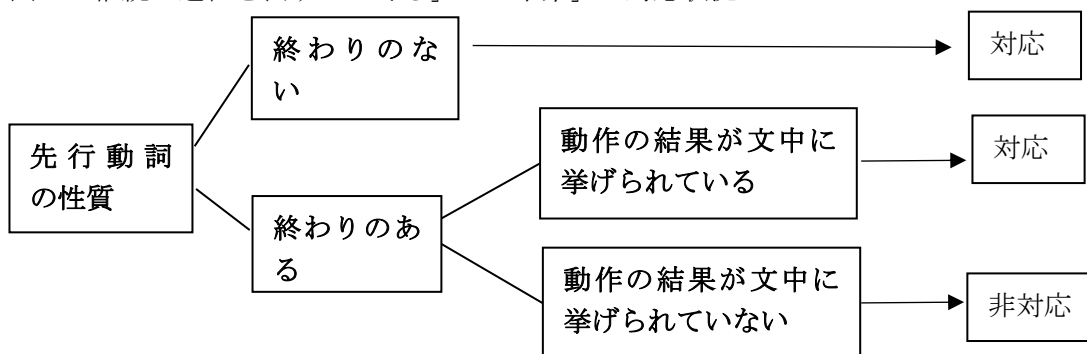
(78) 私は昔からこういう風にしてしか生きてこなかったし、今でもそういう風にしてしか生きていけないのよ。

以前我是这样活过来的。如今也只能这样活下去。

「ノルウェイの森」

最後に、これまで見てきた「てくる」と「下来」の対応状況を図で示すと以下のようになる。

図3. 継続の過程を表す「てくる」と「下来」の対応状況



4. 1. 2 「ていく」と「下去」の表す継続の過程

次は「ていく」と「去」の対応状況を考察していきたい。前述したように、中国語「下去」は空間的移動を表す一方、アスペクト的にも「これから引き続き行われること」を表すことができる。この意味では、「ていく」と「下去」は継続過程を表す際に対応関係を持っているといえる。しかも、「下去」は「下来」のように先行動詞の性質に影響されないので、実際の日中対訳例文にもかなり対応率が高い。

(79) 私は又逆に頁をはぐり返した。そうして一枚に一句位ずつの割で倒に読んで行った。

我又反回来往前翻，一页一句地倒着读下去。

「ころ」

(80) 私はこの一言で、彼が折角積み上げた過去を蹴散らした積りではありません。却ってそれを今まで通り積み重ねて行かせようとしたのです。

我说这句话的本意，并非是想拆毁他苦心累积起来的过去。相反的，倒是要他仍像以前一样继续累积下去。

「ころ」

(81) 今奥さんが急に居なくなったとしたら、先生は現在の通りで生きていられるでしょうか。

假如现在太太突然不在了，先生还能跟目前一样地生活下去吗？

「ころ」

(82) あの目眩るしい東京の下宿の二階で、遠く走る電車の音を耳にしながら、頁を一枚々にまくって行く方が、気に張があって心持よく勉強が出来た。

倒是在眼花缭乱的东京，我在寓所二楼一边听远处电车开驶的声音，一边还是可以把书一页一页地翻下去，有一种紧张的心情，能够痛痛快快地用功。

「ころ」

(83) このまま人間の中に取り残されたミイラの様に存在して行こうか
就这样象一个被遗留在世界上的木乃伊那样存在下去吗？

「ころ」

(84) 円い輪になっているものを一粒ずつ数えて行けば、何処まで数えて行っても結局はありません。

串成一个圆圈的念珠，你要一颗一颗地数下去，数到哪儿也数不完。

「ころ」

(85) 然しそう決心しながら、一日一日と私は断行の日を延ばして行ったのです。

但是一面这样下决心，一面我又把实行日期一天天拖延下去。

「ころ」

(86) こうと信じたら一人でどンドン進んで行くだけの度胸もあり勇気もある男なのです。

相信应该这样做，他就有足够的胆量和勇气，不顾一切地自个儿进行下去的。

「ころ」

しかし、その中で明らかに対応しない場合もある。さらに、吉川氏 (1976) によると、

「てくる」がある動作・作用が過去において始まって、現在まで継続していることを表すのに対して、「ていく」は過去・現在・未来のいずれの時点を基準にしてもその時点から将来の方向へ向かって、ある動作・作用が継続することを表す。それに対して、中国語の「下去」は発話時以降への、すなわち、現在・未来の時点からの継続だけを表す。過去の時点から始まる動作行為が未来へ続く場合、中国語では「下去」を用いることができない。

B1. その日から一人で外国で生活していった。(過去のある時点からの継続)

从那天开始我就一人在国外生活(下去??)了。

B2. 今日から一人で外国で生活していく。(現在からの継続)

从今天开始我就要一个人在国外生活下去了。

B3. 明日から一人で外国で生活していく。(未来のある時点からの継続)

从明天开始我就要一个人在国外生活下去了。

B1, B2, B3 で示されているように、「ていく」はそれぞれ過去、現在、未来のある時点からの継続を表すことができる。しかし、中国語「下去」の場合、「今日・明日」を基準にするときは「生活下去」のように、「ていく」と対応できるが、「その日」になると、「生活下去」の文法性が落ちてしまい、非文になる。

4. 1. 3 まとめ

「てくる」と「下来」:「終わりのある動詞」が先行動詞として用いられる場合、「てくる」と「下来」は対応関係を持つ。「終わりのない動詞」が先行動詞として用いられる場合、継続過程によって得られた結果が文中に挙げられているなら、「てくる」と「下来」は形式的に対応できるが、継続過程によって得られた結果が文中に挙げられていなければ「てくる」と「下来」とは対応できない。

「ていく」と「下去」:「終わりのある動詞」を用いても、「終わりのない動詞」を用いても、「ていく」と「下去」とは対応しているので、日中両言語の対応率がかなり高い。しかし、「ていく」は過去、現在、未来のいずれ時点からの継続を表すことができるのに対し、中国語「下去」は過去の時点からの継続を表すことができないため、過去の時点からの継続を表す文においては、「ていく」と「下去」は非対応の関係にある。

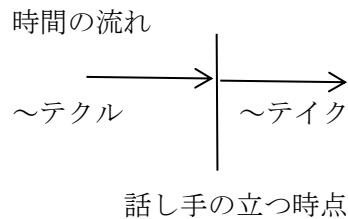
4. 2 変化の過程

森田(1968)が指摘している「ていく・てくる」に関する分類によると、「ていく・てくる」は以下のように、ある状態から別の状態へと変化する過程を具体的に捉えた用法がある。

- 書いて居る内に其父の顔は段々変って行く。(「和解」)
- すると、みるみるH氏の周囲の事情が変って来た。(「流木」)

加えて、話し手の立つ時点から見て、その変化が時間的に接近してくる場合には「～てくる」を、また遠ざかっていく場合には「～ていく」を用いる。

図 3.



また、今仁（1990）では、テクルとテイクの意味について、移動を表わす場合とアスペクトを表わす場合に大きく分けて、そこに共通して見られる共起パターンを分析している。その中で、アスペクトを表す場合には発生系、変化系と継続系があげられている。この変化系は「主体変化であり、変化の認識（また追認）を表す」と定義され、用いられる動詞としては「腐る、膨らむ」のような変化を表す動詞のほか、「冷たくなる」のような「～なる」の形式の動詞が属する。

- 冷蔵庫の肉が、腐ってきた。
- ゴミが、たまってきた。
- 真相が、明らかになっていった。

また、継続系というのは前章に討論した「継続の過程」と同じ範疇に属し、継続を表す動詞「守る、続く、耐える」や継続的繰り返しを許す動詞「(木が花を) つける、(予算を) 繰り越す」などと結びつけて、変化する対象がなく、長期の継続を表す。

さらに、今仁（1990）は、変化系・継続系の用法において、「テクル」はある時点までの変化・継続を、「テイク」はある時点からの変化・継続を表すと指摘している。森田氏と今仁氏の研究を参考に、本研究では「変化の過程」を表す「ていく・てくる」という用法を以下のように定義する。

「てくる・ていく」は「腐る、膨らむ」などの変化を表す動詞や「冷たくなる」のような「～なる」の形式の動詞につき、それぞれ話し手の立つ時点までの変化や話し手の立つ時点からの変化を表す。

実際の文学作品の中で日本語の「てくる/ていく」と中国語の「来，去」のではどのような対応状況を持つかを見てみよう。

4. 2. 1 プラス・マイナスの変化における対応状況

・対応例

「てくる」と「来」

(87) 时间不知不觉溜走了，天色渐渐地昏暗下来，广播喇叭里报出了最后的站名。

知らないうちに時間がたち、空も暗くなってきた。車内放送が最後の駅名を伝えた。

「轮椅上的梦（車椅子の上の夢）」

(88) 他在等待的厌倦里，身心的紧张慢慢地弛缓下来了，至于不再去留心那些汽笛。

彼は、待ちあぐねて、身心の緊張がだんだんゆるんできて、もはや警笛の音に注意しなくなった。

「彷徨」

(89) 当他抬头望望图书馆里各个长桌子上疏疏落落的几个同学，看着这些常碰头的埋头读书的熟面孔，他的心就渐渐安静下来。

だが顔をあげて館内の細長い机のまえに、まばらに坐っている数人の学生を見渡し、書物にかじりついている、いつも見かける常連の顔を眺めているうちに、かれの心はしだいにおちついた。

「青春之歌（青春の歌）」

（90）一度平気で其所を通り抜けたら、馴れば馴れる程、親しみが増すだけで、恋の神経はだんだん麻痺して来るだけです。

一旦平静地度过这一阶段时，越来越驯熟，可是增加的只是亲密，而爱情的神经却渐渐麻痹下来。

「ころ」

（91）然し帰って二日三日と経つうちに、鎌倉に居た時の気分が段々薄くなって来た。

可是回来以后过了两三天，我在镰仓时的那种心情却逐渐地淡漠下来。

「ころ」

（92）当座の一週間位は下にも置かないように、ちやほや歓待されるのに、その峠を規定どおり通り越すと、あとはそろそろ家族の熱が冷めて来て、仕舞には有っても無くっても構わないものように粗末に取扱かわれ勝になるものである。

在刚刚回家的一星期左右，受到了非常周到的体贴和奉承，而在过了这个高峰以后，家里人的热情就会依照一定的规律慢慢地冷下来。到末了往往简慢得好像把你当作一个在也好、不在也好的入。

「ころ」

（93）彼の調子もだんだん沈んで来ました。

他的语调也渐渐低沉下来。

「ころ」

「ていく」と「去」

（94）すると身振いと共に眼も心も醒めてしまいます。時にはいくら飲んでもこうした仮装状態にさえ入り込めないで無暗に沈んで行く場合も出て来ます。

于是，我战栗了，眼睛和心灵也清醒了，有时候，无论怎么喝，却连这种佯狂的神态也装不出来，就索性消沉下去。

「ころ」

（95）その頃は目の詰って行くせわしない秋に、誰も注意を惹かれる肌寒の季節であった。

那是在日子一天比一天短下去的繁忙的秋天，是个谁都提心吊胆的身上感到冷簌簌的季节。

「ころ」

（96）眼の前にある樹は大概楓であったが、その枝に滴るように吹いた軽い緑の若葉が、段々暗くなって行く様に思われた。

眼前的树木大都是枫树，树枝上苍翠欲滴地萌生着新叶，它那片嫩绿的颜色也仿佛在逐渐暗淡下去。

「ころ」

（97）もし反対に胃の力の方がじりじり弱って行ったなら結果はどうなるだろうと想像

して見ればすぐ解る事です。

假如相反,胃的能力在一点一点衰弱下去,那么结果会怎样呢?这是想象一下就能明白的。

「ころ」

(98) 私は結婚してから、この感情がだんだん薄らいで行くのを自覚しました。

我自己觉得在结婚以后,这种感情就渐渐淡薄下去。

「ころ」

以上の対応例をみればわかるように、「てくる/ていく」と複合方向補語「下来、下去」は前章で述べた継続の過程を表す場合だけではなく、変化を表す場面でも対応する状況が存在する。

実際に、中国語の「下来、下去」は継続の意味のほか、形容詞の後に置き、状態の変化を表現する働きを果たす。『講談社 中日辞典』第三版(2010)では「下来」と「下去」の状態変化にかかわる意味について以下のように記述している。

下来:形容詞の後に置き、状態が動から静,明から暗,強から弱のように消極的意味合いに推移することを表す。例えば、车速慢了~(車のスピードが遅くなってきた)/开始冷静~(落ち着いてきた)。

下去:形容詞の後に置き、状態が好ましくない方向に推移していくことを表す。例えば、意志消沉~(気持ちが落ち込んでいく)/一天天衰老~(日一日と老いていく)。

また、劉(1988)では「下来、下去」と共起できる形容詞について以下のように指摘している。

在形容词中有一部分的意义有正向与负向的对立:“大—小, 高—低, 长—短, 强—弱, 厚—薄, 亮—暗, 快—慢, 多—少, 粗—细, 深—浅”等等,“大、高”等为正向形容词,“小、低”等为负向形容词。

“下来”、“下去”可结合的形容词面很窄,只能与负向形容词中表示光线(“黑、暗”声音(“低、小”),速度(“慢”),人的情绪(“冷静、冷、平静、松弛、松”),态度、语气(“缓和、软”)以及健康状况(“弱”)等词结合。

(日本語訳:「形容詞の中の一部は意味的にプラスとマイナスの対立を有している。例えば、「大きい—小さい, 高い—低い, 長い—短い, 強い—弱い, 厚い—薄い, 速い—遅い, 多い—少ない, 太い—細い, 深い—浅い」などのように、「大きい, 高い」などがプラスを表す形容詞、「小さい, 低い」などがマイナスを表す形容詞である。

「下来、下去」と共起できる形容詞の範囲がかなり狭く、マイナスの形容詞の中の「光(黒い, 暗い), 音(低い, 小さい), スピード(遅い), 人の情緒(冷静, 冷たい, 平静, 弛む), 態度, 口振り(和らぐ, 柔らかい)」などを表す語彙としか結びつくことができない。)

中国語におけるプラスとマイナスの形容詞をまとめると以下の表8ようになる。

表8、中国語におけるプラスとマイナスの形容詞(劉(1988)の指摘に基づき筆者が作成)

プラス	大	多	高	深	強	厚	明	快	粗	硬	紧张, 兴奋
マイナス	小	少	低	浅	弱	薄	暗	慢	细	软	冷静

つまり、中国語の「下来」と「下去」はマイナスの形容詞だけと共起し、様々の状態(光や音、スピード、人の情緒、態度、口振りなど)がマイナスの方向へ推移することを表す。

したがって、最初に挙げられた(87)～(98)の対応例はすべて「暗くなる、薄くなる、沈む、弛む」などのようなマイナスの変化を表している。このように、マイナスの変化を表す場合、中国語の「下来」と「下去」はそれぞれ日本語の「てくる」と「ていく」と対応すると言える。

なお、日本語では通常「プラスの形容詞」を用いる場合は「積極的な望ましい状態」の変化を表し、「マイナスの形容詞」を用いる場合には「消極的な望ましくない状態」の変化を表す。一方、劉が指摘した中国語における「(正向)プラス」や「(負向)マイナス」はそれぞれ日本語における意味上の「積極」や「消極」とは違って、例えば、以下のC1とC2とは日本語の文脈においてそれぞれ消極的な意味と積極的な意味を表すが、中国語では同じマイナスの形容詞、「少(少ない)」が用いられるため、マイナスの変化と認められ、「下去」と共起するのである。

C1 储蓄逐渐少下去。
貯金がだんだん少なくなっていく。

C2 烦恼逐渐少下去。
悩みがだんだん少なくなっていく。

このように、劉が指摘した中国語の「プラス」と「マイナス」は日本語における文脈上の「積極」と「消極」とはまた別の意味で、文脈に影響されず、数量の多と少、体積の大と小、光の明と暗、音の高いと低い、スピードの速いと遅い、さらに情緒の安定と不安定といったような絶対的な対立を指す。また、表8に挙げた語を確認すると、プラスの形容詞は比較的強いエネルギーを持つもの及び不安定の状態を持つものを表すのに対して、マイナスの形容詞は弱いエネルギーを持つもの及び安定した状態を持つものを表すという特徴が存在することが分かる。

次に、プラスの変化について見ていこう。

・「ていく」

(99) こうして自然の中で絶えず増大して行く快感は、私の死が近づいた確実なしるしであると思われた。

我不由地想到, 也许这种在自然中不断增大起来的快感, 就是我接近死亡的确证吧。
「野火」

(100) 私は歩き出した。段々飛びに明るくなって行く野に、私のほかに動くものはなかった。

我继续前行, 渐渐明亮起来的原野上, 除我以外没有任何活动的东西。「野火」

・「てくる」

(101) やがて車窓の外の灯の数が次第にふえてきて、東京が近くなった。

不多一会儿，车窗外电灯慢慢地多起来，东京已快到了。

「青春の蹉跎」

(102) そうするうちに部屋のなかまで明るんで来たか、女の赤い頬が目立って来た。

在这当儿，连房间里都明亮起来，她的脸蛋鲜红，分外引人注目。

「雪国」

以上の例文における「ていく/てくる」の先行動詞、「広がる」、「明るくなる」、「増える」はすべて前に述べたプラス状態を表す動詞である。これらに対応する中国語訳文において、複合方向補語としての「起来」を用いるのである。

『小学館 中日辞典』第2版(2003年)では「起来」の意味用法について以下のように述べている。

動詞の後ろに用いて、動作が開始し持続していく、また形容詞の後ろに用いて、ある状態が表れ始める程度が強まりつつあることを表す。接続する形容詞は“坚强～”(しっかりしてくる)，“富裕～”(豊かになってくる)，“胖～”(肥えてくる)などのように、動作することによって積極的な評価を伴うある種の効果を上げるものであることが多い。

また、劉(1988)は「起来」と結びつけられる形容詞の面はかなり広く、プラス方向の形容詞とも、何の方向もない形容詞とも結びつけられるとしている。

したがって、プラスの変化の場合には、「てくる」も「ていく」も中国語の「起来」と対応できるようになる。より厳密にいうと、この場合、「てくる」と「来」は対応関係を持つのに対して、「ていく」と「去」ではなく、「来」と対応するので、後者については逆対応の関係を持つのである。

また、プラスの変化でもマイナスの変化でも、これらの対応例において、先行動詞として、「弛む、落ち着く、弱る、など」のような状態や性質を表す動詞と「冷たくなる、暗くなる、明るくなるなど」のような「形容詞+なる」の形が用いられる。一般的には、行為や動作を表す語彙を動詞、状態や性質を表す語彙を形容詞と称するが、日本語には「弛む、落ち着く、弱る」のような状態や性質を表す動詞も存在する。このような形容詞的動詞を中国語に訳すと「松弛、平静、虚弱」などのような形容詞になる。本研究では、このような中国語に訳すと形容詞になる動詞を形容詞的变化動詞と名付ける。「起来」と「下来/下去」の辞書における用法の解釈にも記述してあるように、これらの複合方向補語はすべて形容詞の後に用いることではじめて、ものごとの状態変化を表す。

さらに、温(2001)では形容詞的機能を備えている動詞と共起する場合、「起来」と「下来/下去」は日本語の「ていく/てくる」と対応しやすい、逆に、形容詞的機能を備えていない動詞の場合は対応しないと指摘している。本研究では、温(2001)の観点を参考に、さらにプラスの変化かマイナスの変化かについて以下のように結論付けている。

「ていく/てくる」の先行動詞は形容詞的变化動詞あるいは「形容詞+なる」という形である場合、プラスの変化を表す時、日本語の「ていく/てくる」は中国語の「起来」と対応する。一方、マイナスの変化を表す時は、「ていく/てくる」は「下来/下去」と対応

する。逆に、以下の(103)～(106)のように、先行動詞は「変わる」などのような、中国語に訳されると形容詞にならない変化動詞あるいは「形容詞以外の品詞+なる」というような「なる」形式の場合は対応しない。

(103) 暑さは少しも衰えなかったが、八月も二十日をすぎると、目立って海の色と空の色が変って来た。

酷暑虽然丝毫没有收敛，但八月份过了二十日以后，海水和天空的颜色却已发生了明显的变化。

「あした来る人」

(104) 影はまるで静かな湖面をうつろう水紋のようにそのかたちを変えていった。

恰似静静湖面上荡漾开来的水纹一样改变着形状。

「ノルウェイの森」

(105) 日本は大人の国になったといったが、「いや、ぽつぽつ老人の国になってきた」と言う人がいる。(名詞+なる)

如前所述，日本已是一个成年人了。但是，也有人说“日本即将变为老人”。

「日本経済の飛躍的な発展」

(106) しかし、少しずつ練習の成果が表れはじめ、いつの間にか、走る時とほとんど変わらないぐらいのスピードでドリブルができるようになっていった。(動詞+なる)

我咬着牙，瞪着眼，坚持着，终于有一天，我可以灵活自如地运球了。

「五体不満足」

今まで分析してきたことを表にまとめてみると、以下のようになる。

表9、変化の過程を表す用法における「ていく/てくる」と「去/来」の対応状況

先行動詞の性質	変化の方向	日本語	中国語
形容詞的变化動詞、 また「形容詞+なる」	プラスの変化	ていく/てくる	起来
	マイナスの変化	ていく/てくる	下去/下来
非形容詞的变化動詞、また「形容詞以外の品詞+なる」	—	非対応	

4. 2. 2 話し手の主体的立場と「ていく・てくる」の使用

これまで見てきたように、状態変化がプラスかマイナスかは中国語「下来、下去」または「起来」の使用に影響をもたらす。それに対して、日本語の「ていく/てくる」にはどんな特徴が確認されるのだろうか。森田(1968)では、変化の仕方の過程に対する把握は話し手の主体的立場によっており、～テイク・～テクルの選択も決定されるとしている。また、森田(1968)では、以下の二つの例文が挙げられている。

○ かへってそのために、ますます私の情熱はたかまって来ていた。

「(肉体の悪魔)」

○ 本当の地図への彼の情熱はしだいに増して行った。

具体的な解釈として、森田氏は「～テクル」は対象の変化が話し手の時点に向かってくる気分を表すところから、言語主体に直接関係をもつ話し手側の問題（たとえば利害関係を持つ事がらなど）として主観的にとらえ叙述するという意識が働くとしている。「～テイク」は対象が話し手から遠ざかっていく気分を表わすところから、言語主体と直接関係のない第三者の事がらとして距離をおいて客観的に眺めるという意識が働く」としている。

つまり、日本語では、同じ変化の過程を表現する際に、話し手自身の事がらについて述べる場合「てくる」を、話し手以外の相手の事がらについて叙述する場合「ていく」を用いる傾向がある。しかし、中国語にはおいて話し手の主体的立場が「来、去」の選択に影響する決定的な要素ではないため、以下の例文のように、日本語において、話し手自身（僕）の事について述べる場合「てくる」を、また、第三者（江華）に関わる事がらについて述べる場合は「ていく」を使うのに対し、中国語では両者を区別せずに、どちらも「下来」を使うのである。

(107) 在一片洼地上，江华慢慢放下这个渐渐冷下来的健壮的躯体，默默地看了他一会儿。

窪地の地面に、江華はしだいに冷えていく頑健な農民の遺体を、ゆっくりとおろし、しばらくのあいだ、じっと見つめていた。

「青春之歌（青春の歌）」

(108) 僕は汗に濡れた躰がすっかり冷えて来るのを感じ、作業衣の襟を喉にまきつけて部屋の外へ出た。

我感到出了一身汗的身体完全冷却下来了，把作业服的领子系好后出了房间。

「死者の奢り」

4. 3 動作・作用の発生（てくるのみ）

次は、「動作・作用の発生」という日本語「てくる」のみの用法について、日中対照研究を行っていききたい。

本研究では、吉川（1976）の定義を参考に、「聞こえてきた」「見えてきた」などのような視覚や聴覚の働きによってもたらす知覚の発生と「わかってきた」「感じてきた」のような心理状態、あるいは「雨が降ってきた」のような人の意識と関わらず、自然に発生する現象のような、ある知覚や心理状態、非意志的現象の自然的な生起を表す場合の「てくる」の用法を「動作・作用の発生」と定義している。

「くる」は空間的移動を表す意味では「話し手へ向かう移動」という意味合いを有している。それを認知的な用法に派生させると、外的環境の与えてくる刺激を人が五感（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚）を使って感じ取り始めることあるいは心理や感情の変化を引き起こすことを表す意味合いになると考えられる。言い換えると、外的要素の影響が人の内面へ到達する過程、つまり、人が外の世界に対して認知し始める過程ともいえる。

この用法での日中対照研究では主に非意志的現象の発生、知覚の発生、そして心理状態の発生の三種に分けて考えていききたい。

まず、「雨が降ってきた」のような非意志的現象の発生については、中国語では、「下起…雨来」のように、日本語の「てくる」と対応する「起来」を用いている。

(109) 雷鳴を轟かせる黒雲が市街の方から押し寄せて、降って来るのは万年筆ぐらいな太さの棒のような雨であった。

雷声轰鸣，黑云从市街那边压过来，接着下起钢笔杆那么粗的雨来。

「黒い雨」

中国語複合動詞「起来」は前にも触れたが、“富裕～”（豊かになってくる），“胖～”（肥えてくる）などの形容詞の後ろについて、ある状態が表れ始める程度が強まりつつあることを表すほかに、「咳嗽（せきをする）、哭（泣く）、唱歌（歌う）、看书（本を読む）、下雨（雨を降る）」などの持続的な動詞と結びついて、「新たな事態の出現」を表すと丸尾（2005）が指摘している。この「てくる」も自然現象の発生、広い意味で、ある事態からその逆の事態への移行を表わしているのので、中国語の「起来」と意味的に対応するのである。

次に、知覚の発生に関しては主に聴覚、視覚と嗅覚にめぐって分析していきたい。最初に、以下の非対応の例文を確認する。

(110) 雪がとけはじめ、春の音が聞えてくる三月末のことである

雪已开始融化，已经可以听见春天的脚步声了。

「越前竹人形」

(111) 東の風が吹くと、クラゲは火災の煙で見えなくなるが、風向きが変わるとまた見えて来た。

东风一吹，海蜇云被大火的烟雾遮住，看不见了。可是，风向一变，又能看见了。

「黒い雨」

(112) そのうちに、周囲に居る他の見物人が、仕掛け花火が始まるが、ここからでは見えないと言っているのが聞えて来た。

这工夫，听到观众议论说：地面烟花就要开始了，可这里看不见呀！

「あした来る人」

(113) しかし風にさわぐ黒い松林のかなた、鹿苑寺の総門が見えて来たとき、私の心は徐々に冷え、無力は立ちまさり、酔い心地は嫌悪に変わり、何ものへとも知れぬ憎しみがつのった。

当我已经望到松涛大作的黑松林旁的鹿苑寺总门时，我的心开始变冷，我无力地停下脚步，陶然的心境变作厌恶，变作一种无名的憎恨。

「金閣寺」

以上の例文で示されているように、中国語では日本語の「聞こえてくる、見えてくる」と同じ形式で、知覚を表す動詞「听（聞く）」、「看（見る）」などの後に直接「来」をつけて知覚の発生を表せない。そのかわりにこのような動詞の後に結果補語「到」「见」をつけて表す場合が多い。

結果補語「到」「见」の意味用法に関しては、『小学館 中日辞典』第2版（2003年）によると、「见」と「到」は動詞の後について、それぞれ視覚・聴覚・味覚などを感じ取り、認識することと動作の結果や目的が達成されることを表している。したがって、中国語訳文で挙げられている「听/看+见，听/看+到」のように、中国語では知覚動詞「看，听」などの後に「来」のかわりに、「见」あるいは「到」をつける形を用いて、日本語「てくる」の表す視覚や聴覚のような知覚の発生の働きによってもたらす感知結果の達成という意味合いを表すのである。

しかし、以下の例文のように、「てくる」と「来」は対応関係になる場合も存在する。

(114) あたりを見回したが、そのなき声がどこから聞えて来るか、克平には見当がつか

なかった。

他打量一下四周，仍弄不清是从哪里传来的。

「あした来る人」

(115) すると、受話器の中からは、「来てくれるかい?」と、低い低声が響いて来た。

于是听筒里传来徐缓的男低音：“能来一趟吗?”

「あした来る人」

(116) その小舎の中から、今、ギイコ、ギイコと轆轤を廻す音がしてくる。

眼下，吱勾吱勾转动竹钻的声音正从那小屋子里传出来。 「越前竹人形」

以上の三つの例文の共通点は聴覚の働きによってもたらされる知覚の発生について書かれている点である。また、それぞれの例文における聴覚の発生を表すフレーズ（「聞こえてくる」、「響いてくる」、「音がしてくる」）、それが中国語訳文では、どちらも「传来」（伝わってくる）に訳されている。なお、聴覚動詞の後に直接つく日本語「てくる」の表す認知的用法と違って、中国語「传来」の中の「来」は移動を表す動詞「传」（ある場所から別の場所へ届くことを意味する）の後につくため、空間移動の方向性を強調するのである。

また、例文（117）のような嗅覚を表す場合も、日本語では「便所から匂ってくる」という表現を使うのに対して、中国語では「来自厕所（便所から来る）」というふうに訳されている。中国語と日本語では同じ「てくる」と「来」は使っているにもかかわらず、この場合、中国語の動詞「来自」は「…から来る」の意味で、この「来」は補助動詞ではなく、本動詞として用いられ、「匂い」が他所から自分側まで届くことを表す。

(117) 便所から匂ってくるらしいと喜助は思ったが、それが何のために備えつけてあるのか知らなかった。

喜助觉得这气味是来自厕所，至于厕所为什么要放置石炭酸，他就不了解了。

「越前竹人形」

(114)～(117)の例文において、「〇〇から」というフレーズが存在することによって、音やにおいといった物理作用の対象が、話し手まで届いてくる経路が文中に提示されている。そのため、中国語において、空間移動を意味する「来」を用いて、音やにおいなどを具体的なものとして捉え、そのようなものが接近して、耳や鼻まで届いてくる過程を表現することができる。

最後に、先行動詞が「わかる、思う、感じる」などのような思考動詞になると、即ち、「てくる」は人の心理状態の発生を表す場合、中国語では「明白、想起、觉得」のように、これらの思考動詞の意味をそのまま訳され、「来」を用いることができない。

(118) 僕が話さないでも自然と分って来るです。

我即使不说你也会自然弄明白的。

「坊ちゃん」

(119) 学生のことも思い出されて来た。

她又想起学生们。

「あした来る人」

(120) このもともと有難くない仕事が、彼女には急に心の重荷となって感じられて来た。

对来医院这桩本来就不情愿的事情，陡然觉得成了沉重的心理负担。

「あした来る人」

(121) 「二日間北壁に挑む。風強し」が、これはこれでいかにも克平らしいものに思えて来た。

觉得“两天间向北壁挑战。风猛”这句话，确实只能出自克平之笔。

「あした来る人」

つまり、「雨が降ってきた」というような非意志的な現象の発生について表現する際に、中国語では「起来」という複合補語を用いて日本語と対応している。知覚の生起を表す場合には、中国語では「来」を使わず、感覚を表す動詞の後に「见、到」をつける場合が一般的である。ただ、聴覚や嗅覚の発生を表す場合には、音やにおいの発生地から話し手まで届いてくる経路が文中に提示される際に、「传来(伝わってくる)、来自(…から来る)」のように、「来」を用いることができる。そして、思考活動による心理状態の生起を表す場合、中国語では「来」を用いることができない。

4. 4 消滅の過程と出現の過程

吉川(1976)によると、補助動詞「てくる」は出現の過程を表す動詞に、「ていく」は消滅の過程を表す動詞につけて用いられて、それらの過程に具体的叙述性を与える。「てくる」の場合、用いられる先行動詞としては「現れる、生まれる、うかぶ、(興奮が)込み上げる、よみがえる、わく」などがある。「ていく」の場合、用いられる先行動詞として、「消える、死ぬ、失う」などの動詞がある。

馬(1977)では中国語「来、去」の使い分けは空間的な移動方向と関わるだけでなく、主観的に可視であるか否か、感知できるか否かという人の主観的な態度や感覚とも関わりと指摘している。ある動作によってもたらす結果は可視的であれば、後ろに「来」をつけ、逆の場合には、「去」をつける傾向がある。この理論に基づいて、丸尾(2005)では出現義には“来”が、消失義には“去”が用いられていると論じている。例えば、以下のような二つの動作によってもたらす「表」(可視)と「裏」(不可視)の結果の対立を表すには中国語ではそれぞれ「来、去」を用いて区別している。

○ 翻过来 — 翻过去

「表にする」 「裏にする」

丸尾(2005)

このような先行研究を合わせて分析してみると、日本語の「てくる、ていく」と中国語の「来、去」は出現義、消滅義を表す面では一定的な対応性を持つのではないかと考えられる。

この部分では、最初に述べた吉川の挙げた出現と消滅を表す動詞と「てくる/ていく」と結びつける形をめぐって、日中対訳の例文を参考に、日中対照分析を行っていきたい。

4. 4. 1 消滅の過程を表す「ていく」と「去」

(1 2 2) そんなところで一人ぼっちでじわじわと死んでいく。

就在那样的地方，一个人孤零零地一分一秒地挣扎着死去。

「ノルウェイの森」

例文(1 2 2)で示されているように、中国語にも「死去」のように、「動詞+去」という形を用いて、日本語の「死んでいく」と対応している。他には、「次第に気力を失っていく」—「渐渐失去力气」というふうに、「失っていく」と「失去」も同じ形に対応している。消失の過程を表す意味では、日本語「ていく」と中国語「去」はある程度の対応性を持つことが分かる。

しかし、日本語では先行動詞は同じ「消える」「忘れる」などのような動詞になる場合、中国語訳文では、先行動詞の後に「去」はつけられなくなるのである。

(1 2 3) 煙はまっすぐ上に立ちのぼって夜の闇の中に消えていった。

风已经停了，烟直线上升，消失在夜色中。

「ノルウェイの森」

(1 2 3) では「消えていった」は中国語訳文では「消失」に訳されている。「陳 (2007) では「消失」のような中国語の動詞に内在する方向性が、消失変化の方向を指示するだけでなく、失ったという完成態をも表せるため、“去”のような補助的成分を添えると、意味が重なってしまい、逆に不自然になると述べている。ここで言う「中国語の動詞に内在する方向性」という点は陳が杉村 (1982) の観点を引用して、指摘したものである。具体的に説明すれば、以下のようになる。

4.1.1 節にも述べたように、杉村 (1983) は、中国語の“上”は上の方向または過去を表し、“下”は下の方向または未来を表すと述べ、また、未来への継続を表す場合には、中国語では動詞の後に「下去」をつけて表現すると指摘している。一方、杉村は「中国語では、語彙の中に「上へ」或は「下へ」という方向性がすでに内在している動詞がある」と述べている。このような観点により、陳では、方向性がすでに内在している動詞を用いる場合、中国語では、以下のように、「下去」を使わず動詞のみで表わすことができると指摘している。

○ 今後もわが社の発展のために努力していくつもりだ。

今后仍打算为我公司的发展努力(下去)。

つまり、上の例文における中国語動詞「努力」は「未来へ」という方向性がすでに内在しているので、「下去」を用いなくても意味的に支障はない。

加えて、「現代中国語大辞」(第5版 商務印書館)の記述によると、中国語「消失」は「(事物) 逐渐减少以至没有」(日本語訳：(ものごと) だんだん少なくなって、最後になくなる) という意味を表す。辞書における「消失」の意味は陳の指摘した「消失変化の方向を指示するだけでなく、失ったという完成態をも表せる」という点と一致することが分かる。すなわち、「消失」のような動詞自体には物事が漸次的に消え、最後に完全になくなるという全過程を表す意味合いが含まれているので、陳の指摘した通りに、これ以上「去」をつけると意味が重なって、逆に不自然になるのである。

また、「忘れていく」は(1 2 4)の例文において、中国語「忘掉」に訳され、「去」を用いることができない。「忘掉」も「消失」と同じく、動詞自身の内在する方向性が記憶の失っていく過程とともに、全てを忘れてしまうという結果の完成も表せる。

(1 2 4) そんな淡い遠い思いだったら、私はこんなに苦しまず、次第にあなたを忘れて行く事が出来たでしょう。

我的心思如果是那样淡淡的而又遥远的话，我就不会这么痛苦，也可以逐渐把您忘掉了。

「斜陽」

4. 4. 2 出現の過程を表す「てくる」と「来」

(1 2 5) 才二年级，一进学校便有一种如鱼得水的感觉。似乎他生下来就是为了来上学的。

まだ二年生なのに、水に放たれた魚のように我物顔、学校に行くために生まれてきた子のようにであった。

「活动变人形 (応報)」

例文(125)で示されているように、日本語の「生まれてくる」と同じ意味を持つ中国語の「生下来」は動詞「生(生まれる)」+複合方向補語『下来』という形を用いる。また、中国語では「生来」のように、方向補語「来」だけを用いることも許容される。

(126)でもそんな風に僕の頭の中に直子の顔が浮かんでくるまでには少し時間がかかる。そして年月がたつにつれてそれに要する時間はだんだん長くなっていく。

但是，为使直子的面影在我脑海中浮现出来，我总是需要一点时间。而且，随着岁月的流逝，所需时间愈来愈长。

「ノルウェイの森」

例文(126)では中国語には「浮现出来」のように複合方向補語「出来」を用いて、「てくる」と対応している。他には、「涙が湧いてくる」のような表現は中国語では「眼泪流了出来」とのように、同じ「出来」を使うのである。『小学館 中日辞典』第2版(2003年)によると、「出来」は「隠れた状態から明らかな状態へ」「新しい事物の出現」といった意味合いを表す。

また、「よみがえってくる、生き返ってくる」は中国語では「苏醒过来、活过来」に訳されるように、「てくる」は「本来の正常状態、あるいは良好な状態に戻ること」³を表す複合方向補語「过来」と対応している状況も存在する。

丸尾(2005)では出現義には“来”が、消失義には“去”が用いられていると論じており、さらに、「来」の表す「出現に対する認識のされ方」について、以下のような具現化された例を挙げている。中には、D1は体内的現象であって目に見えないが、そのような状態になって初めてその存在(ここでは「痰」)を認識できる。D2の「涙」は体の内部から出現するものである。

D1. 老人喉里的痰涌上来。《曹禺「北京人」574》

「老人ののどの痰があがってくる」

D2. 泪水流了出来。

「涙があふれてきた」

D3. 小猪生下来了。

「子豚が生まれてた」

このように、出現過程を表す用法には、「てくる」と「来」はかなりの対応性をもつと言える。

しかし、「現れる」という動詞が先行動詞になる場合、例文(127)のように、中国語訳文では、「現れてくる」をそのまま「出現」に訳して、その後に「来」をつけないのである。

(127)あたかもそう云う時期に於いて、たまたまナオミと云う者が私の眼の前に現れて来たのです。

正是这个时候，纳奥米偶然地出现在我的面前。

「痴人の愛」

³ 『小学館 中日辞典』第2版(2003年)

陳 (2007) の論じている「消失」と「去」とが共起できない理由を参考に、「消失」の反義語に当たる「出現」も同じ方向性が内在する動詞で、その方向性は現れてきたという過程だけではなく、現れたという完成態をも表せると考えられる。また、「現代中国語大辞」(第5版 商務印書館)では「出現」の意味解釈について「显露出来(現れてくる)」と記述してある。ここの「显露」は「現れる」の意味で、「出来」は複合方向補語として、「てくる」と同じように出現の過程を表す。すなわち、中国語「出現」という語はすでに日本語の「現れてくる」という意味合いを表している。したがって、意味重複を避けるため、出現の過程を表す「来」を用いることができない。

一方、「出現」という語は出現する過程より、出現した完成態という意味合いに重点を置くため、(127)の例文のような「たまたま…私の前に現れて来た」という結果重視の文脈において用いることができるが、(128)(129)のような「少しずつ姿をあらわしてきた」「しだいにあらわれてくる」といった過程重視の文脈においては「出現」のかわりに「显露出来」「显现出来」のような「出現動詞+出来」を用いて表現したほうがより適切である。

(128) 目をさましたとき窓の外には乳白色の霧がたれこめていたが、太陽が上るにつれて霧は風に流され、雑木林や山の稜線が少しずつ姿をあらわしてきた。

睁眼醒来时，窗外笼罩着乳白色的雾霭，随着太阳的升起而随风吹去，于是杂木林和山脉的棱线一点点显露出来。

「ノルウェイの森」

(129) 家庭内ではほとんど味わえなかった欲求不満を体験し、忍耐力が養われてくるのです。集団のなかに放り出した効果はしだいにあらわれてくるでしょう。

在家里从来都能得到满足的欲望在这里第一次得不到满足。在体会这种不满足的过程中，孩子的忍耐力得到锻炼，集体生活的好处会逐渐显现出来。

「ひとりっ子の上手な育て方」

第5章 終章

5.1 日中対照研究の成果

本研究では、中日対訳コーパスにおける例文を採集して、対照しながら、日中両言語に存在する統語的な特徴などを踏まえて、補助動詞「ていく/てくる」と「去/来」及び「去/来」の各種複合形式の各用法における日中対応状況、または共起する先行動詞の性質について考察を行った。それぞれの用法において得られた対応状況の結果は以下の通りにまとめている。

移動に関する用法

①行為の順次性

「行為の順次性」を表す用法において、「ていく/てくる」と「去/来」は先行動詞の表す動作が行われた後、「いく/くる」という移動行為が起こることを表す。先行動詞が「立ち上がる」などのような自動詞の場合、「ていく/てくる」は「去、来」は対応しやすいが、先行動詞が対象語を持つ他動詞の場合、対象語が動作主に伴って移動するならば、「ていく/てくる」は「去、来」と対応関係を持つが、逆に、対象語が動作主に伴って移動しなければ、対応関係が成り立たない。

なお、例外として、「てくる」は往復的な移動を表す場合、先行動詞が自動詞（出てく

る)、あるいは対象語が動作主に伴って移動しない他動詞(映画を観てくる)であるときには、「てくる」は中国語の「去」と逆対応の関係になる。

②移動の方法

「移動の方法」という用法において、「歩いていく/くる」は「走来/去」、「走っていく/来る」は「跑来/去」、「乗ってくる」は「坐来」とそれぞれ対応できることが確認できた。この用法での「V+ていく/てくる」と「V+去/来」はかなり高い対応性を持っているといえる。

しかし、移動の方法を表す移動様態動詞(歩く、走る、など)が先行動詞として用いられるこの用法において、日本語では「ていく/てくる」を先行動詞の後に付属してどのような方法で移動することかを表すに対して、中国語の表現は移動の様態、過程に焦点を当てがちであるため、明確な移動経路や方向性が文中で提示されていない場合、様態移動動詞だけで表現することもできるし、様態移動動詞の後ろに「去/来」をつけて表現することもできる。なお、明確な移動経路や方向性が文中で提示されている場合だけは「去/来」を使わなければならない。

③移動の状態

「移動の状態」という用法において、「持つていく—带去、持つてくる—拿来、連れてくる—接来」のように、「いく・くる」も「去/来」も移動するときの状態を表す動詞の後に付き、何かを伴って移動することを表すことができ、日中両言語における対応性がかなり高いと言える。しかし、中国語の表現では、「いく・くる」という移動行為の様態、過程に焦点を当て、「去/来」の代わりに、「先行動詞+移動様態動詞『走』」を用いて表すこともできる。また、複文において、前文にて移動行為を表す「去/来」がすでに出現している場合に、重複を避けるため、後文での「V+去/来」の中の「去/来」が脱落する現象があることを確認できた。

④移動・動作の方向性

・移動の方向性

日本語にも中国語にも、「移動動詞+ていく/てくる」あるいは「移動動詞+去/来」という形を用いて移動の方向性を表す用法が存在するため、「入ってくる/ていく—进来/进去、出てくる/ていく—出来/出去、上がってくる/いく—上来/上去、下りてくる/いく—下来/下去、帰ってくる/いく—回来/回去」のように日中両言語ではかなり多くの対応例を確認できた。

しかし、以下のような非対応と逆対応の状況も存在する。

「場所目的語」が文中に存在するとき、中国語では、「去/来」を省略して、「移動動詞+場所目的語」という形を用いて移動経路を表現できる。また、中国語において、方向補語のみならず前置詞によっても経路表現できるため、「去/来」の代わりに、「移動動詞+前置詞(向/到)」という形を用いて移動の方向性を表現することが可能である。さらに、話し手の視点の置く場所の違いにより、「ていく/てくる」は「去/来」は逆対応の関係になる。

・動作の方向性

先行動詞が移動性動詞ではなく、動作性動詞になると、日中両言語における対応性がそれほど高くないのである。また、用いられる先行動詞は「投げる、襲う、打つ、食わす」などのような、身体的な動きによって引き起こされた実質的な影響を相手に及ぼすこ

とを表す動詞である場合は、「ていく/てくる」と「去/来」は対応する。しかし、先行動詞が「話しかける、言う、要求する、注文する」のような実質的な動きではなく、相手に対して何らかの手段を通して話し手の意思や要求を伝えることを表す場合、日本語では「ていく/てくる」を用いてその動作の具体的な方向性を表すが、中国語「去/来」はこのような動詞と共起することが不可能であるため、日中両言語は非対応の関係になる。

アスペクトに関する用法

①継続の過程

この用法において、主に「てくる」「ていく」とアスペクト機能を持つ中国語複合方向補語「下来」「下去」に関する対照分析を行った。得られた結論は以下のようになる。

「てくる」と「下来」:「終わりのある動詞」が先行動詞として用いられる場合、「てくる」と「下来」は対応関係を持つ。「終わりのない動詞」が先行動詞として用いられる場合、継続過程によって得られた結果が文中にあげられているなら、「てくる」と「下来」は形式的に対応できるが、継続過程によって得られた結果が文中にあげられていないなら、「てくる」と「下来」とは対応しない。

「ていく」と「下去」:「終わりのある動詞」を用いても、「終わりのない動詞」を用いても、「ていく」と「下去」とは対応しているので、日中両言語の対応率がかなり高い。しかし、「ていく」は過去、現在、未来のいずれ時点からの継続を表すことができるのに対し、中国語「下去」は過去の時点からの継続を表すことができないため、過去の時点からの継続を表す文には、「ていく」と「下去」は非対応の関係を持つ。

②変化の過程

「変化を表す」用法において、中国語「去/来」の使用に影響する要素（プラスの変化かマイナスの変化）と日本語の「ていく/てくる」の使用に影響する要素（話し手の主体的立場）との二つの観点から日中対照分析を行った。

「ていく/てくる」の先行動詞は形容詞的变化動詞あるいは「形容詞+なる」という形である場合、プラスの変化を表す時、日本語の「ていく/てくる」は中国語の「起来」と対応する。マイナスの変化を表す時に、「ていく/てくる」は「下来/下去」と対応できるようになる。逆に、先行動詞は状態や性質に関係せず、中国語に訳されると形容詞にならない変化動詞（変わるなど）の場合と「形容詞以外の品詞+なる」である場合は対応しない。

また、日本語「ていく・てくる」の選択は話し手の主体的立場にも決定され、話し手側の事柄として捉え、主観的に変化を叙述する場合、「てくる」を使い、第三者の事柄として捉え、客観的に変化を叙述する場合、「ていく」を使うのである。それに対して、中国語「去/来」の使用は話し手の主体的立場と関係しない。

③動作・作用の発生

この用法での日中対照研究では主に非意志的現象の発生、知覚の発生、そして心理状態の発生の三種に分けて考察した。

「雨が降ってきた」というような非意志的な現象の発生について表現する際に、中国語では「起来」という複合補語を用いて日本語と対応している。知覚の生起を表す場合には、中国語では「来」を使わず、感覚の表す動詞の後に「见、到」をつける場合が一般的である。ただ、聴覚や嗅覚の発生を表す場合には、音やにおいの発生地から話し手まで届いてくる経路が文中に提示される際に、「传来（伝わってくる）、来自（…から来

る)」のように、「来」を用いることができる。そして、思考活動による心理状態の生起を表す場合、中国語では「来」を用いることができない。

④消滅の過程と出現の過程

消滅の過程を表す「ていく」と「去」、出現の過程を表す「てくる」と「来」はある程度対応性を持つことが確認できた。ただ、中国語訳文において、先行動詞が「消失」「忘掉」と「出現」のような動詞の内在する方向性が消滅と出現の過程だけではなく、消滅と出現の完成態も表す動詞になる場合、意味重複を避けるため、補助動詞「来/去」を用いられない。

この8種の用法における日中対応状況を通してみると、移動に関する用法においても、アスペクトに関する用法においても、「V+ていく/てくる」と「V+去/来」との間にはある程度の対応性を持つが、移動に関する用法の方がより高い対応性を持つと考えられる。なお、中国語では移動行為を表現する際に、移動の様態、過程に焦点を当てがちという特徴が存在するため、「去/来」の代わりに、様態動詞「走」などを用いる傾向がある。また、移動の方向性を表すときに、「去/来」を使わず、「移動動詞+場所目的語」という形で表現する場合がある。このような原因で日本語の「ていく/てくる」と非対応の関係になる。さらに、往復移動の過程に対する表現の仕方の違いと移動行為を表す時の話し手の視点の置く場所の違いによって、逆対応の関係になる場合もある。

一方、アスペクト用法においては、継続と変化の過程を表せる中国語複合方向補語「下去/下来」と「ていく/てくる」との対応性がかなり目立つ。なお、先行動詞の性質や話し手の主観的立場の影響で、両者の対応関係もそれに応じて変わっていく。

5. 2 今後の課題

「V+ていく/てくる」というのは日本語における使用率の結構高い表現である。しかし、「ていく/てくる」は具体的な空間移動義から抽象的なアスペクト義まで、様々な意味用法が存在するため、日本語学習者にとって理解するにはかなりの難関である。本研究では、「V+ていく/てくる」と「V+去/来」の移動及びアスペクトに関する用法における対応状況を考察したが、実際にこの研究の成果をどのように日本語教育現場に生かすかという内容にはまだ触れていない。今後の課題として、中国人日本語学習者が「ていく/てくる」の意味用法についての習得状況や使用実態などについて調査し、そこから確認できた問題点に対して、本研究で得られた結果も参考しながら、「ていく/てくる」に関する日本語指導にも提言することを期待している。

引用・参考文献

日本語

- 今仁生美 (1990) 「V テクルと V テイクについて」『日本語学 第9巻 第5号』pp. 54-66 明治書院
- 王軼群 (2009) 『空間表現の日中対照研究』くろしお出版
- 王志英 (2007) 「中国語の"過來、過去"と"～過來、過去"について」沖繩大学人文学部紀要 (9), 19-31
- 大江三郎 (1975) 「日英語の比較研究— 主観性をめぐって[M]」名古屋：南雲堂、: 35-43

- 温 雅琚 (2001) 中国語の「起來/下來/下去」におけるアスペクチュアルな意味用法 阪
大学言語文化学
- 加藤晴子 (2006) 「中日対訳コーパスにみる“来”“去”と「くる」「いく」の対応状況」
『明海大学大学院応用言語学研究科紀要応用言語研究』8, pp. 87-104
- 工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト』ひつじ書房
- 杉村博文 (2000) 「“走进来”について」『荒屋勸教授古希記念 中国語論集』白帝社
- 曹 大峰 千葉 庄寿 (2007) 中日対訳コーパス (第一版) の利用方法
<http://www.fl.reitaku-u.ac.jp/LINC/pub/cjcs1.pdf>
- 宋麗艷 (2014) 「V+ていく/てくる」と「V+去/来」の対照研究—共起動詞vを中心に
湖南大学 修士学位論文
- 中日辞典 (2003) 第2版 小学館
- 中日対訳コーパス 第一版C (2002, 2003) 北京日本学研究中心
- 張勝男 (2009) 「『いく・来る』と『去・来』における多義構造についての対照研究」西南
交通大学 修士学院論文
- 陳 湘奉 (2017) 「ていく・てくる」と“去・来”の日中対照研究」さいたま言語研究(1),
59-72
- 丸尾誠 (2005) 『現代中国語の空間移動表現に関する研究』白帝社
- 森田良行 (1968) 「『行く・来る』の用法」『国語学』75: 7587
- 森田良行 (1996) 『意味分析の方法—理論と実践—』ひつじ書房
- 吉川武時 (1976) 「現代日本語動詞のアスペクト 研究」金田一春彦編『日本語動詞のアス
ペクト』所収 pp. 156-327 むぎ書房

中国語

- 杉村博文 (1983) 「试论趋向补语“·下”“·下来”“·下去”的引申用法」『语言教学与研究』
第四期 北京语言出版社
- 刘月华 (1988) <几组意义相关的趋向补语语义分析>, 《语言研究》第1期 (总第14期)
- 馬慶株 (1997) 「V来/去与现代汉语动词的主观范畴」『语文研究』第3期 (总第64期)
小学館
- 现代汉语词典 (2005) 第5版 中国社会科学院语言研究所词典编辑室编 商务印书馆

謝辞

本稿の執筆から完成に至るまで、多くの方々からご支援とご指導をいただきました。特に、指導教官である余健教授は研究テーマの決定や参考資料を集めることにあたって大きな力を貸していただきました。また考察の不十分なところについてご丁寧に指摘してください、多くのご助言やご意見をいただきました。今まで長い時間にわたって、ご親切にご指導をくださった余健教授に心より厚くお礼を申し上げます。

また、本研究の考察における基礎となる資料、日中対訳コーパスを提供してくださいました丹保健一教授にも深く感謝申し上げます。

最後に、大学院二年間において、日常の議論を通じて、多くの示唆をいただいた日本語学ゼミの皆様にも感謝の意を申し上げます。

添付資料

・日中対訳コーパスによる例文（「対応、非対応、逆対応」）

- (1) 梶はナプキンを帯の間に、はさんだまま電話口へ立ち上がって行った。
梶腰带里照样掖餐巾，起身朝电话机走去。
「あした来る人」
- (2) 遭難者があることが新聞に出ていたので、心配になって来たんです。
报上说有人遇难，就担心得跑来了。
「あした来る人」
- (3) 「待て、ビールを都合してくる」。
“等着，我去开啤酒来！”
「あした来る人」
- (4) 来る途中小間物屋で買って来た歯磨と楊子と手拭をズックの革靴に入れてくれた。
她把路上从杂货店买来的牙刷、牙签和毛巾，一起塞进我的帆布提包里。
「坊ちゃん」
- (5) 頼んでもらって来たのだから、今さら要らなくなったとは言えんよ。
托人要来的，现在怎么好说不要！
「あした来る人」
- (6) 「出てくるわよ」
“我出去一趟！”
「あした来る人」
- (7) わいな、あした、その番頭はんのところへ人形もっていってくるわ。
“我明天上那位管家处走一次，把竹偶给他带去。”
「越前竹人形」
- (8) 「まあ、犬!いやだわ、帽子の中へ入れて来たりして」
“哎呀，狗？真是的，还装在帽子里拿回来！”
[あした来る人]
- (9) 世界万国の国旗を悉く借りて来た位、縄から縄、綱から綱へ渡しかけて、大きな空が、いつになく賑やかに見える。
仿佛把世界各国的国旗都借来了，纵横交错地系在绳子上，场面热闹非凡。
[坊ちゃん]
- (10) 三沢は大型タクシーを拾って来ると、杏子だけを助手席に乗せ、他の四人を客席に詰め込み、最後に自分もそこに割り込んだ。
三泽叫来一辆大型出租车，让杏子坐上助手席，又把其他四人塞进后座，最后自己也挤了进来。
[あした来る人]
- (11) 赤手拭は宿へ忘れて来たのが残念だが今日は先方で借りるとしよう。
红毛巾忘在寓所了，真遗憾，今天只好在那边租用一下了。
[坊ちゃん]
- (12) おれは新聞を丸めて庭へ投げつけたが、それでもまだ気に入らなかったから、わざわざ後架へ持って行って棄てて来た。
我把报纸揉成一团扔到院子里，但这样还不解气，又把它填到粪坑里。
[坊ちゃん]

(13) 犬を取り返しに来ておいて、結局それを自分に置いて行った。

克平原来是取狗的，结果却把狗留给了自己。

「あした来る人」

(14) 力石医師の置いていった熱さましの内服薬が、翌日からの玉枝の唯一の治療薬となった。

力石医生开的清热的内服药就成了玉枝唯一的治疗药。

「越前竹人形」

(15) でけたぶんだけもっていく。

并把完工的那部分给他带去。

「越前竹人形」

(16) 八千代から言われたように、海の方へ向って歩いて行った。

他按八千代说的往海滨方向走去。

「あした来る人」

(17) 克平はこの時刻に、日本橋の方から銀座の方へ歩いて行くのが好きである。

克平喜欢在这种时候从日本桥步行去銀座。

「あした来る人」

(18) こちらへ歩いてくる女をみたとたんに、思わず咽喉から驚愕の声が走った。

他望着向自己走来的女子，喉咙里不禁冒出了惊愕的声音。

「越前竹人形」

(19) 両側に墓地のある道を、自動車は速力を落すことなしに走って行った。

汽车沿着墓地一侧的道路，飞快地跑了过去。

「あした来る人」

(20) 間もなく、向うからサイレンを鳴らした消防自動車が、ものものしい感じで走って来た。

俄顷，拉响警笛的消防车从对面惊心动魄地飞驰而来。

「あした来る人」

(21) 人が二三人かけて来た。

两三个人跑上前来。

「あした来る人」

(22) 汽車に乗って来たのなら、ひと風呂浴びて、さっぱりした方がいい。

坐火车来的，最好还是洗个澡，舒展一下。

「あした来る人」

(23) 自分のペースを守って舗道を歩いて行くことに、ある快感を持っている。

他对按自己的行速在人行道上行走有着一种快感。

「あした来る人」

(24) 喜助は温泉街を歩いていった。人通りは多かった。

喜助在温泉街上走过，路上的人很多。

「越前竹人形」

(25) 吸いかけた巻烟草を海の中へたたき込んだら、ジュと音がして艫の足で掻き分けられた浪の上を揺られながら漾っていった。

訳文1、我把吸剩的烟头抛进海里。“嗤”的一声，烟头随着被桨划起的浪花摇摇晃晃地漂走了。

訳文2、我把吸剩的烟头扔进水里。烟头啞地一声，在櫓端摇荡着，随着水花飘浮而去。

「坊ちゃん」

(26) わいが人形もっていく。

我得把竹偶带去。

「越前竹人形」

(27) 一体、どのくらいの金を持って行くんです？

究竟带多少钱去？

「あした来る人」

(28) 「金を集めるのにも、たいして頭を下げないで集める。大威張りで持ってくる。あの才能だけはたいしたものだ」

拿筹款来说，他不怎么低声下气就把钱弄来了，趾高气扬地弄来了。只这个能耐非一般人可比。”

「あした来る人」

(29) 亭主が茶を飲みに来るだけなら我慢もするが、色々なものを持ってくる。

房东只是过来喝喝茶，我倒也罢了，他还拿来了好多东西。

「坊ちゃん」

(30) 向島のおばはんに会うてくるのんもええけど、あんたがひとりでいくより、わいもついていくとええがのう。

向島の姑母也是要去见见的，不过我陪你一起去，要比你一个人去好得多。

「越前竹人形」

(31) 鮫島は好奇な眼もとでこの光景をみていたが、喜助が母屋の方へ案内するので、作業場をもう少し見学したい心のこりの顔をしながら、尾いていった。

鮫岛以好奇的眼光望着这番情景，由于喜助在前面带路往正屋走去，鮫岛只好带着想再稍稍参观一下作业场的遗憾神情，尾随喜助而去。

「越前竹人形」

(32) 御婆さん、東京へ行って奥さんを連れてくるんだと答えて勘定をすまして、すぐ汽車へ乗って浜へ来て港屋へ着くと、山嵐は二階で寐ていた。

俺说：“大娘，俺这是去东京，把俺太太接来。”俺算还了房费，立刻坐小火车到海滩去，进了港屋，“豪猪”正在楼上睡觉呢。

「坊ちゃん」

(33) これから病院に行ってもらうわけだが、やはり何か持って行く方がいいかな。

你这就去医院一趟。还是要带点什么东西吧。

「あした来る人」

(34) ところが行くときは必ず西洋手拭の大きな奴をぶら下げて行く。

我每次去时，总是拎着西式大毛巾。

「坊ちゃん」

(35) おれと山嵐をぐいぐい引張って行く。

拉起我和豪猪就走。

「坊ちゃん」

(36) こう考えて、いやいや、附いてくると、何だか先鋒が急にがやがや騒ぎ出した。

俺一边这样左思右想，一边心烦意乱地跟着队伍向前走（去）。

「坊ちゃん」

(37) 馴染の芸者が這入ってくると、入れ代りに席をはずして、逃げるなんて、どこまでも人を胡魔化す気だから気に食わない。

相好的艺妓一进来，他就马上离席而去，溜之乎也，以为这就可以骗过人的耳目，真让俺看不上！

「坊ちゃん」

(38) 喜助はいい、やにわに炉端を立て、上りがまちから草履をつっかけ、表へ出ていくのだった。

喜助接嘴说了之后，猛然从炉边站起来，到门槛处趿了一双草履走出门外，像是上作业场去了。

「越前竹人形」

(39) 杏子は二人が出てくるまで、そのままそこに立っていた。

杏子依旧站着没动，直到两人从里边出来。

「あした来る人」

(40) 喜助は玉枝のいうままに、上り口にゴムの長靴をぬいで上っていった。

喜助便听从玉枝的话，在去里屋的阶梯口脱下了长统胶靴，向里屋走去。

「あしたくる人」

(41) 玉枝はなんとなく勇気が出てきて、くの字にまがった土堤の小道を下りていった。

玉枝不知怎么来了勇气，从“之”字型的堤上小道走了下去。

「あしたくる人」

(42) 「帰ってくるか、帰って来ないか、向うでよく考えを決めます」

“回来还是不回来，在那边好好想想再定。

「あした来る人」

(43) 夏の陽にきらきら輝いている入江を横切って、船は真直ぐに岬に向って行く。

穿过夏日阳光下浮光耀金的海湾，径直向海角开去。

「あしたくる人」

(44) 急にやさしい言葉になった忠平が、顔を近づけてくる。

忠平的话忽然温存起来，脸也在一点点靠上来。

「越前竹人形」

(45) 杏子は一刻も早く大貫家から遠ざかるために、足早にゆるやかな傾斜をなしている路地を下って行った。

为了尽快把大贯家远远抛在后边，杏子脚步匆匆地走下慢坡胡同。

「あしたくる人」

(46) 一同はまた三沢のあとについて、人の流れの中にはいった。そして途中から流れを抜けると、真暗い急な坂を上って行った。

大家跟着三泽，杀入人流之中。途中突围而出，爬上一条黑漆漆的坡路。

「あしたくる人」

(47) 八千代がそれみたことかといった面持ちで、居間へ入って行く。

八千代一副理直气壮的神经，走进起居室。

「あしたくる人」

(48) 克平は大急ぎで着替えをして、座敷へはいって行った。

赶紧换上衣服，步入客厅。

「あしたくる人」

(49) エレベーターで三階に上がり、長い廊下を通って行く。

乘电梯上到三楼，穿过长长的走廊。

「あしたくる人」

(50) 言葉少なにそれだけ行って、藪の中へ入っていくのだった。

喜助不再多说，便走进 竹丛中 去了。

「越前竹人形」

(51) しばらく、壁にかけてある小刀や、弦掛糸鋸や竹割鉋や、挽鋸などのならんだ道具をみていたが、ひとりで母屋へ帰っていった。

她对并排挂在壁上的刀、带弓的钢丝锯、剖竹刀、拉锯等工具看了一会儿，便独自回
正屋 去了。

「越前竹人形」

(52) この溪谷の流れが遠く郷里まで流れて行くのかと思うと、やはり多少の感慨なきを得なかった

想到这道山水将远远流向自己的故乡，她不禁生出几分感慨。

「あしたくる人」

(53) 急に眼頭にのぼってくる熱いものをおさえながらいった。

玉枝觉得有一股热流在很快地涌向头部，她竭力压抑着。

「越前竹人形」

(54) それからうちへ帰ってくると、宿の亭主が御茶を入れましょうと云ってやってくる

回到寓所，房东走进来说：“沏杯茶吧。”

「坊ちゃん」

(55) いつも知らないところを訪ねて行く時はこうである。

每次到陌生之地，从没有一次顺利过。

「あしたくる人」

(56) 途中から小倉の制服を着た生徒に沢山逢ったが、みんなこの門を這入って行く。

路上碰到许多身穿棉布制服的学生，都从这大门进来。

「坊ちゃん」

(57) 喜助は喜左衛門の墓石の前に額をすりつけるようにしてさげぶと、やがて一目散に丘を下りていった。

他的前额几乎要擦着喜左卫门的墓碑。接着，他一溜烟地从山丘上下来了。

「越前竹人形」

(58) 喜助は立ち上ると、きょとんとしている玉枝をそこに残して、そそくさと「花見家」を出てくるのであった。

喜助站了起来，留下茫然若失的玉枝，急匆匆地从“观花院”出去。

「越前竹人形」

(59) そして、その銀座の裏通りがかなり新橋に近くなると、克平は両側の店の一軒一軒に視線を投げて行った。

当克平沿着銀座后街快要走到新桥时，他放眼向两侧鳞次栉比的店铺看去。

「あしたくる人」

(60) 梶の身体をめがけて襲ってくるおびたしい用件のうちの、ざっと二割はこうした種類の、厳密に言えば、彼自身にはあまり関係のないことであった。

朝梶大助身上压来的不可胜数的事务当中，大约有二成属于此类，严格说来与他本来无甚关联的事情。

「あした来る人」

(61) 研究室独特の薬品臭い冷んやりしたにおいが顔を打って来た。

研究室里特有的药味带着一股凉气扑面而来。

「あしたくる人」

(62) ところがこっちから返報をする時分に尋常の手段で行くと、向から逆振を食わして来る。

但是，如果我用寻常的手段回敬他们，他们就会反扑过来。

「坊ちゃん」

(63) 大阪から上京して築地の第三ホテルに泊っている父親から電話がかかって来たのである。

正拾綴着，从大阪来京住在第三饭店的父亲打来了电话。

「あした来る人」

(64) 結局は八千代の方から言葉をかけて行く。

终归还是由八千代主动搭话。

「あしたくる人」

(65) ところが、いま、昔馴染みの男、崎山が眼の前に現われて、眼尻に皺をよせながら話しかけてくる姿をみていると、ふっと、玉枝は昔にかえった。

然而，眼下出现了崎山这个老相识，看到崎山皱着眼角的皮肤以及那种交谈的样子，玉枝突然回到了从前的日子。

「越前竹人形」

(66) 酒井信輔の方から逆に連絡を要求されて来たことを知って、血が顔に上がって行った。

现在得知酒井信輔反而主动要求同其联系，不禁血往上涌，深感汗颜。

「あした来る人」

(67) 竹人形をみた小売屋は、「兼徳」へ翌日から電話で注文してきた。

从第二天起，看见过竹偶的小商店纷纷打电话给“兼徳”，要求订货。

「越前竹人形」

(68) 我就是这样活下来的。

私はこんな風にして生きて来たのです。

「こころ」

(69) 共に昔流行した着物を保存して来た家のものだろう。

看来，都像是把过去流行的服装保存下来的人家。

「黒い雨」

(70) 这几句话是一口气说下来的，根本不容别人插嘴，也没等别人转过向来，他就一步跨到门口，冲着院子喊。

張金発はそこまで一氣にいってのけると、誰にもひとことの口出しにもさせず、気を変えるすきも与えず、サッと戸口に出ると、庭に向かって怒鳴った。

「金光大道（輝ける道）」

(71) 自分は克平と結婚してからいままでずっと、今の夢の中の出来事を繰返して来たと思う。

她觉得，自己同克平结婚以来，日子始终是刚才梦境的循环反复。

「あした来る人」

(72) 根は大学を出てから今日まで、日本中の至るところの漁村で、こうして温かく土地土地の人たちに送られて来た。

大学毕业直至今天，在日本各地每一座渔村里，他无不受到当地人们如此充满温情的送行。

「あした来る人」

(73) 私これまでの人生で十分傷ついてきたし、これ以上傷つきたくないの。幸せになりたいのよ。

在过去的生活里我已经被伤害得够厉害了，不想再受下去，我要活得快活些。

「ノルウェイの森」

(74) 彼はその『問題』を解決しようと、これまでに様々な治療を受けてきました。

他为了解决这个“问题”，至今为止接受过种种治疗。

「1Q84B00K2」

(75) 私おじいさん、おばあさん、お母さん、お父さんと四人看病してきたからよく知ってるのよ。

爷爷、奶奶、妈妈、爸爸，四人的病我一直照看下来的，经验丰富着哩。

「ノルウェイの森」

(76) あらゆる事業を、彼はこのようにしてやって来たのである。

所有的事业他都是这样干过来的。

[あした来る人]

(77) 玉枝はん、あんたはわいのお母はんや、わいはそない思うて、今日まで暮してきたんやがな。

玉枝姐，你是我的母亲呀。我一直是这样想着生活过来的。

[越前竹人形]

(78) 私は昔からこういう風にしてしか生きてこなかつたし、今でもそういう風にしてしか

生きていけないのよ。

以前我是这样活过来的。如今也只能这样活下去。

「ノルウェイの森」

(79) 私は又逆に頁をはぐり返した。そうして一枚に一句位ずつの割で倒に読んで行った。

我又反回来往前翻，一页一句地倒着读下去。

「ころろ」

(80) 私はこの一言で、彼が折角積み上げた過去を蹴散らした積りではありません。却ってそれを今まで通り積み重ねて行かせようとしたのです。

我说这句话的本意，并非是想拆毁他苦心累积起来的过去。相反的，倒是要他仍像以前一样继续累积下去。

「ころろ」

(81) 今奥さんが急に居なくなったとしたら、先生は現在の通りで生きていられるでしょうか。

假如现在太太突然不在了，先生还能跟目前一样地生活下去吗？

「ころろ」

(82) あの目眩るしい東京の下宿の二階で、遠く走る電車の音を耳にしながら、頁を一枚々にまくって行く方が、気に張があって心持よく勉強が出来た。

倒是在眼花缭乱的东京，我在寓所二楼一边听远处电车开驶的声音，一边还是可以把书一页一页地翻下去，有一种紧张的心情，能够痛痛快快地用功。

「ころ」

(83) このまま人間の中に取り残されたミイラの様に存在して行こうか
就这样象一个被遗留在世界上的木乃伊那样存在下去吗？

「ころ」

(84) 円い輪になっているものを一粒ずつ数えて行けば、何処まで数えて行っても終局
はありません。

串成一个圆圈的念珠，你要一颗一颗地数下去，数到哪儿也数不完。

「ころ」

(85) 然しそう決心しながら、一日一日と私は断行の日を延ばして行ったのです。
但是一面这样下决心，一面我又把实行日期一天天拖延下去。

「ころ」

(86) こうと信じたら一人でどンドン進んで行くだけの度胸もあり勇氣もある男なので
す。

相信应该这样做，他就有足够的胆量和勇气，不顾一切地自个儿进行下去的。

「ころ」

(87) 时间不知不觉溜走了，天色渐渐地昏暗下来，广播喇叭里报出了最后的站名。
知らないうちに時間がたち、空も暗くなってきた。車内放送が最後の駅名を伝えた。

「轮椅上的梦（車椅子の上の夢）」

(88) 他在等待的厌倦里，身心的紧张慢慢地弛缓下来了，至于不再去留心那些汽笛。
彼は、待ちあぐねて、身心の緊張がだんだんゆるんできて、もはや警笛の音に注意
しなくなった。

「彷徨」

(89) 当他抬头望望图书馆里各个长桌子上疏疏落落的几个同学，看着这些常碰头的埋头
读书的熟面孔，他的心就渐渐安静下来。

だが顔をあげて館内の細長い机のまえに、まばらに坐っている数人の学生を見渡
し、書物にかじりついている、いつも見かける常連の顔を眺めているうちに、かれの心は
しだいにおちついてきた。

「青春之歌（青春の歌）」

(90) 一度平気で其所を通り抜けたら、馴れば馴れる程、親しみが増すだけで、恋の
神経はだんだん麻痺して来るだけです。

一旦平静地度过这一阶段时，越来越驯熟，可是增加的只是亲密，而爱情的神经却
渐渐麻痹下来。

「ころ」

(91) 然し帰って二日三日と経つうちに、鎌倉に居た時の気分が段々薄くなって来た。
可是回来以后过了两三天，我在镰仓时的那种心情却逐渐地淡漠下来。

「ころ」

(92) 当座の一週間位は下にも置かないように、ちやほや歓待されるのに、その峠を規
定どおり通り越すと、あとはそろそろ家族の熱が冷めて来て、仕舞には有っても無くって
も構わないもののように粗末に取扱かわれ勝になるものである。

在刚刚回家的一星期左右，受到了非常周到的体贴和奉承，而在过了这个高峰以后，

家里人的热情就会依照一定的规律慢慢地冷下来。到末了往往简慢得好像把你当作一个在也好、不在也好的。

「こころ」

(93) 彼の調子もだんだん沈んで来ました。

他的语调也渐渐低沉下来。

「こころ」

(94) すると身振いと共に眼も心も醒めてしまいます。時にはいくら飲んでもこうした仮装状態にさえ入り込めないで無暗に沈んで行く場合も出て来ます。

于是，我战栗了，眼睛和心灵也清醒了，有时候，无论怎么喝，却连这种佯狂的神态也装不出来，就索性消沉下去。

「こころ」

(95) その頃は日の詰って行くせわしない秋に、誰も注意を惹かれる肌寒の季節であった。

那是在日子一天比一天短下去的繁忙的秋天，是个谁都提心吊胆的身上感到冷簌簌的季节。

「こころ」

(96) 眼の前にある樹は大概楓であったが、その枝に滴るように吹いた軽い緑の若葉が、段々暗くなって行く様に思われた。

眼前的树木大都是枫树，树枝上苍翠欲滴地萌生着新叶，它那片嫩绿的颜色也仿佛在逐渐暗淡下去。

「こころ」

(97) もし反対に胃の力の方がじりじり弱って行ったら結果はどうなるだろうと想像して見ればすぐ解る事です。

假如相反，胃的能力在一点一点衰弱下去，那么结果会怎样呢？这是想象一下就能明白的。

「こころ」

(98) 私は結婚してから、この感情がだんだん薄らいで行くのを自覚しました。

我自己觉得在结婚以后，这种感情就渐渐淡薄下去。

「こころ」

(99) こうして自然の中で絶えず増大して行く快感は、私の死が近づいた確実なしるしであると思われた。

我不由地想到，也许这种在自然中不断增大起来的快感，就是我接近死亡的确证吧。

「野火」

(100) 私は歩き出した。段々飛びに明るくなって行く野に、私のほかに動くものはなかった。

我继续前行，渐渐明亮起来的原野上，除我以外没有任何活动的东西。

「野火」

(101) やがて車窓の外の灯の数が次第にふえてきて、東京が近くなった。

不多一会儿，车窗外电灯慢慢地多起来，东京已快到了。

「青春の蹉跎」

(102) そうするうちに部屋のなかまで明るんで来たか、女の赤い頬が目立って来た。

在这当儿，连房间里都明亮起来，她的脸蛋鲜红，分外引人注目。

「雪国」

(103) 暑さは少しも衰えなかったが、八月も二十日をすぎると、目立って海の色と空の色が変って来た。

酷暑虽然丝毫没有收敛，但八月份过了二十日以后，海水和天空的颜色却已发生了明显的变化。

「あした来る人」

(104) 影はまるで静かな湖面をうつろう水紋のようにそのかたちを変えていった。

恰似静静湖面上荡漾开来的水纹一样改变着形状。

「ノルウェイの森」

(105) 日本は大人の国になったといったが、「いや、ぼつぼつ老人の国になってきた」と言う人がいる。

如前所述，日本已是一个成年人了。但是，也有人说“日本即将变为老人”。

「日本經濟の飛躍的な發展」

(106) しかし、少しずつ練習の成果が表れはじめ、いつの間にか、走る時とほとんど変わらないぐらいのスピードでドリブルができるようになっていった。

我咬着牙，瞪着眼，坚持着，终于有一天，我可以灵活自如地运球了。

「五体不満足」

(107) 在一片洼地上，江华慢慢放下这个渐渐冷下来的健壮的躯体，默默地看了他一会儿。

窪地の地面に、江華はしだいに冷えていく頑健な農民の遺体を、ゆっくりとおろし、しばらくのあいだ、じっと見つめていた。

「青春之歌（青春の歌）」

(108) 僕は汗に濡れた体がすっかり冷えて来るのを感じ、作業衣の襟を喉にまきつけて部屋の外へ出た。

我感到出了一身汗的身体完全冷却下来了，把作业服的领子系好后出了房间。

「死者の奢り」

(109) 雷鳴を轟かせる黒雲が市街の方から押し寄せて、降って来るのは万年筆ぐらいな太さの棒のような雨であった。

雷声轰鸣，黑云从市街那边压过来，接着下起钢笔杆那么粗的雨来。

「黒い雨」

(110) 雪がとけはじめ、春の音が聞えてくる三月末のことである

雪已开始融化，已经可以听见春天的脚步声了。

「越前竹人形」

(111) 東の風が吹くと、クラゲは火災の煙で見えなくなるが、風向きが変わるとまた見えて来た。

东风一吹，海蜇云被大火的烟雾遮住，看不见了。可是，风向一变，又能看见了。

「黒い雨」

(112) そのうちに、周囲に居る他の見物人が、仕掛け花火が始まるが、ここからでは見えないと言っているのが聞えて来た。

这工夫，听到观众议论说：地面烟花就要开始了，可这里看不见呀！

「あした来る人」

(113) しかし風にさわぐ黒い松林のかなた、鹿苑寺の総門が見えて来たとき、私の心は徐々に冷え、無力は立ちまさり、酔い心地は嫌悪に変わり、何ものへとも知れぬ憎しみがつづいた。

当我已经望到松涛大作的黑松林旁的鹿苑寺总门时，我的心开始变冷，我无力地停下脚步，陶然的心境变作厌恶，变作一种无名的憎恨。

「金閣寺」

(114) あたりを見回したが、そのなき声がどこから聞えて来るか、克平には見当がつかなかった。

他打量一下四周，仍弄不清是从哪里传来的。

「あした来る人」

(115) すると、受話器の中からは、「来てくれるかい?」と、低い低声が響いて来た。

于是听筒里传来徐缓的男低音：“能来一趟吗？”

「あした来る人」

(116) その小舎の中から、今、ギイコ、ギイコと轆轤を廻す音がしてくる。

眼下，吱勾吱勾转动竹钻的声音正从那小屋子里传出来。

「越前竹人形」

(117) 便所から匂ってくるらしいと喜助は思ったが、それが何のために備えつけてあるのか知らなかった。

喜助觉得这气味是来自厕所，至于厕所为什么要放置石炭酸，他就不了解了。

「越前竹人形」

(118) 僕が話さないでも自然と分ってくるです。

我即使不说你也会自然弄明白的。

「坊ちゃん」

(119) 学生のことも思い出されて来た。

她又想起学生们。

「あした来る人」

(120) このもともと有難くない仕事が、彼女には急に心の重荷となって感じられて来た。

对来医院这桩本来就不情愿的事情，陡然觉得成了沉重的心理负担。

「あした来る人」

(121) 「二日間北壁に挑む。風強し」が、これはこれでいかにも克平らしいものに思えて来た。

觉得“两天间向北壁挑战。风猛”这句话，确实只能出自克平之笔。

「あした来る人」

(122) そんなところで一人ぼっちでじわじわと死んでいく。

就在那样的地方，一个人孤零零地一分一秒地挣扎着死去。

「ノルウェイの森」

(123) 煙はまっすぐ上に立ちのぼって夜の闇の中に消えていった。

风已经停了，烟直线上升，消失在夜色中。

「ノルウェイの森」

(124) そんな淡い遠い思いだったら、私はこんなに苦しまず、次第にあなたを忘れて行く事が出来たでしょう。

我的心思如果是那样淡淡的而又遥远的话，我就不会这么痛苦，也可以逐渐把您忘掉了。

「斜陽」

(125)才二年级,一进学校便有一种如鱼得水的感觉。似乎他生下来就是为了来上学的。

まだ二年生なのに、水に放たれた魚のように我物顔、学校に行くために生まれてきた子のようであった。

「活动変人形（応報）」

(126)でもそんな風に僕の頭の中に直子の顔が浮かんでくるまでには少し時間がかかる。そして年月がたつにつれてそれに要する時間はだんだん長くなっていく。

但是,为使直子的面影在我脑海中浮现出来,我总是需要一点时间。而且,随着岁月的流逝,所需时间愈来愈长。

「ノルウェイの森」

(127)あたかもそう云う時期に於いて、たまたまナオミと云う者が私の目の前に現れて来たのです。

正是这个时候,纳奥米偶然地出现在我的面前。

「痴人の愛」

(128)目をさましたとき窓の外には乳白色の霧がたれこめていたが、太陽が上るにつれて霧は風に流され、雑木林や山の稜線が少しずつ姿をあらわしてきた。

睁眼醒来时,窗外笼罩着乳白色的雾霭,随着太阳的升起而随风流去,于是杂木林和山脉的棱线一点点显露出来。

「ノルウェイの森」

(129)家庭内ではほとんど味わえなかった欲求不満を体験し、忍耐力が養われてくるのです。集団のなかに放り出した効果はしだいにあらわれてくるでしょう。

在家里从来都能得到满足的欲望在这里第一次得不到满足。在体会这种不满足的过程中,孩子的忍耐力得到锻炼,集体生活的好处会逐渐显现出来。

「ひとりっ子の上手な育て方」